

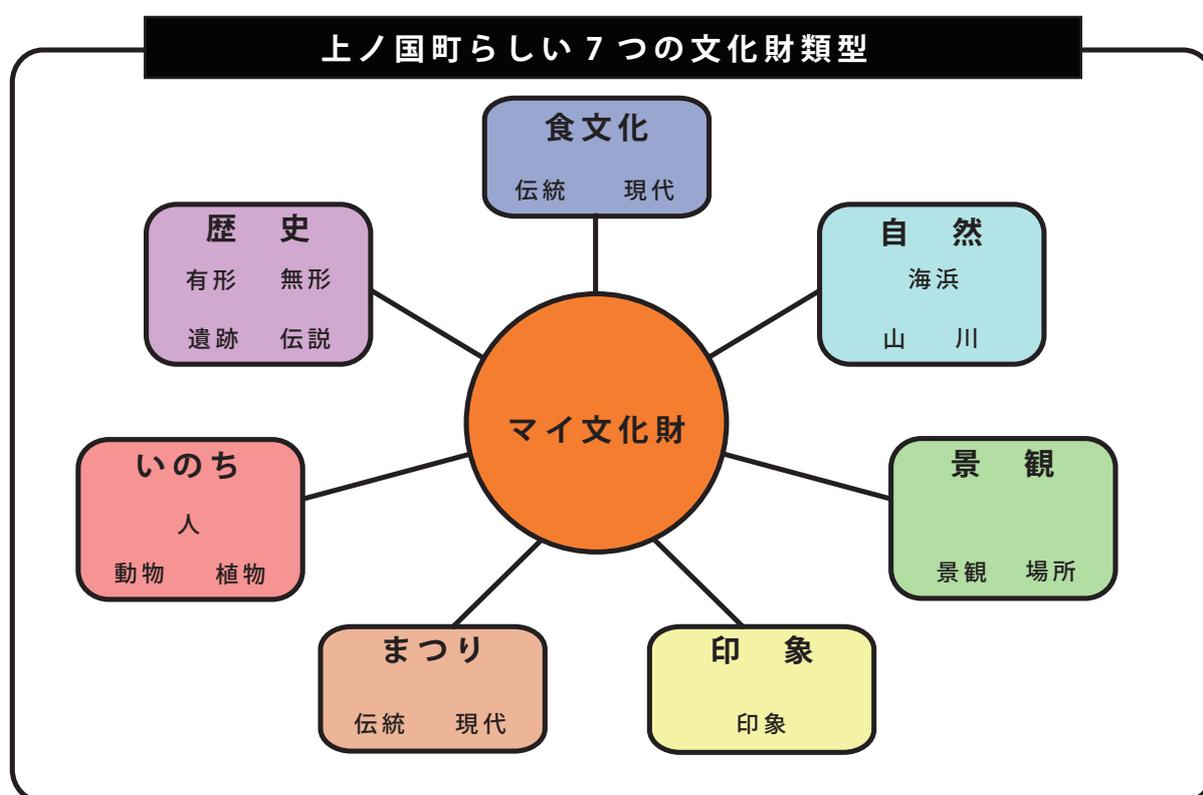
Ⅳ 上ノ国町のマイ文化財調査の成果

1. 調査方針

本構想では、文化財調査を行うにあたり、各人が挙げた“我が町にとって大事な文化財”を「マイ文化財」と命名している。今回、アンケート調査等でマイ文化財を募集したところ、総数 608 件を集めることができた。

次に、集計した「マイ文化財」を集約・整理を行って、“上ノ国町らしい文化財類型”として①歴史、②食文化、③自然、④景観、⑤いのち、⑥まつり、⑦印象の7つに大別した。

さらに、大分類とした7つを小分類として17に細別している。マイ文化財や文化財類型の詳細については、「3. (1) マイ文化財一覧」や「3. (2) 上ノ国町らしいマイ文化財類型の設定」を参照願いたい。



2. 調査経過

(1) 世代別マイ文化財調査

マイ文化財調査では、幅広い年齢層から多くの意見を集め、世代ごとの特徴も今後把握できるように6世代に分けて集計を行っている。

各世代は、保育園児（上ノ国・河北保育所）、小学生（上ノ国・河北・滝沢小学校）、中学生（上ノ国中学校）、高校生（上ノ国高等学校）、大学生・大学院生（上ノ国町の地形・地質調査に入っている弘前大学教育学部小岩研究室）、大人を対象に、下表の日程でアンケート調査及び現地調査を実施した。

日 時	活 動 実 績	内 容
H28. 11. 19 (土)	連続歴史講座「ふるさとの歴史を読み解く」における町民アンケート調査	一般町民からのマイ文化財収集
H28. 12. 20 (火)	小中学生を対象としたアンケート調査の実施 (H29. 1. 31 迄)	小中学生からのマイ文化財収集
H29. 1. 13 (金)	保育園児を対象としたアンケート調査の実施 (1. 31 迄)	保育園児からのマイ文化財収集
H29. 3. 9 (木)	上ノ国かるたづくり (高校生を対象としたアンケート調査を兼ねる)	高校生からのマイ文化財収集
H29. 3. 10 (金)	弘前大学小岩研究室学生・院生を対象としたアンケート調査	町外の大学生からのマイ文化財収集

○アンケートで配布した調査票 (一部)

**教えてください！あなたが思う
上ノ国のイチオシ**

広報かみのくに平成28年8月号でもお知らせしている
とおり、教育委員会では、町の文化財をその周辺環境まで
含めて保護活用をする目的で「歴史文化基本構想」を策定
します。
そこで、皆さんからの意見を活かした「歴史文化基本構想」
とするため

**「これは未来に伝えたい・・・」
「私だけが知っている・・・」**

といったモノ・コトについて、ジャンルを問わずあなたが
思う上ノ国のイチオシ情報を募集します。

ご意見は、裏面の FAX 用紙やメールでお寄せ下さい。

【本調査および歴史文化基本構想に関するお問い合わせ】
上ノ国町教育委員会 文化財グループ
〒049-0611 上ノ国町字大留 100
電話0139-55-2230/FAX0139-55-1044
E-mail : info@town.kaminokuni.lg.jp

教えてください！あなたが思う上ノ国のイチオシ

**わたしが思う
上ノ国のイチオシ**

よろしければその理由もお書き下さい：

**わたしが思う
上ノ国のイチオシ**

よろしければその理由もお書き下さい：

(2) 方面別調査

アンケートで挙げられたマイ文化財について、中央・山・海の方面ごとに現地調査を実施し、現状把握等を行った。

① 中央方面（1～3地区）

日時	活動実績	内容
H28. 9. 30（金）	策定委員・調査部員による国指定文化財調査	史跡勝山館跡、重要文化財旧笹浪家住宅・上國寺の調査
H28. 12. 20（火）	小林委員樹種同定サンプル採取調査（12. 22迄）	史跡勝山館跡・上ノ国市街地遺跡出土の木製遺物からサンプル採取の実施
H29. 3. 13（月）	小林委員樹種同定サンプル採取調査（3. 16迄）	同上
H29. 4. 30（日）	調査部員が昔踊り体験	担い手が減少し、活動休止していた伝統芸能「昔踊り」の体験を行い、現在は郷土芸能として復活を果たしている。
H29. 5. 3（水）	調査部員が「切り声」の民俗調査	上ノ国八幡宮の祭典で、「信廣山」「蛭子山」の采配役の人たちが歌う切り声を調査
H29. 7. 1（土）	調査部員がコシャマイン慰霊祭に参加	アイヌ関係文化財についての意見交換
H29. 9. 7（木）	策定委員・調査部員による国指定文化財等調査	史跡上之国館跡、旧笹浪家住宅の民俗文化財などの調査



上ノ国八幡宮渡御祭の様子



コシャマイン慰霊祭（イチャルパ）



上ノ国昔おどり



策定委員による現地調査



樹種同定の調査

② 山方面（４・５地区）

日時	活動実績	内容
H28. 11. 1（火）	会田委員と調査部員が中須田地区の調査	京谷家に伝わるアバ等を調査
H29. 1. 26（木）	調査部員が「かたこ餅」づくりを調査	郷土料理の継承を目的に映像記録を作成
H29. 2. 6（月）	調査部員が金子鶴雄さんの持つ「縄ない技術」（わらじづくり）を調査	伝統技術の継承を目的に映像記録を作成
H29. 2. 10（金）	調査部員がくじら汁づくりを調査	郷土料理の継承を目的に映像記録を作成
H29. 5. 21（日）	調査部員が湯ノ岱地区の調査及び情報交換	湯ノ岱地区のまちあるき、聞き取り調査
H29. 6. 5（月）	調査部員が七ツ岳登山の準備調査	登山道の草刈り等
H29. 6. 24（土）	調査部員が七ツ岳登山の準備調査	登山道の草刈り・ロープ張り等
H29. 6. 25（日）	調査部員が湯ノ岱地区の調査及び情報交換	登山に係る地元の人たちの協力要請
H29. 7. 6（木）	調査部員が七ツ岳登山の準備調査	登山道の草刈り・仮橋設置等
H29. 7. 15（土）	策定委員・調査部員による七ツ岳登山	七ツ岳からの眺望景観及び周辺の植生調査
H29. 7. 16（日）	策定委員・調査部員による湯ノ岱地区の調査	湯ノ岱地区の食文化・自然資源の調査
H29. 10. 5（木）	調査部員が宮越・早瀬地区聞き取り調査	宮越地区及び早瀬地区の食文化や行事等の聞き取り調査
H29. 10. 8（日）	調査部員が小森地区聞き取り調査	小森地区住民からの地域の食文化や行事などの聞き取り調査



中須田地区でのアバ（漁に使用する網のうき）調査



わらじづくり調査



早瀬地区の六体地藏



早瀬地区の調査



宮越地区の調査



ゼンマイ干しの様子



七ツ岳調査の様子



小森のアカダモの木

③ 海方面（6～10地区）

日 時	活 動 実 績	内 容
H29. 2. 16 (木)	調査部員が小砂子地区での聞き取り調査 1	小砂子地区の民俗文化、郷土料理の聞き取り
H29. 3. 2 (木)	調査部員が小砂子地区での聞き取り調査 2	小砂子地区の民俗文化、郷土料理の聞き取り
H29. 3. 5 (日)	調査部員が小砂子地区の「けんちん汁」づくりを調査	郷土料理の継承を目的に映像記録を作成
H29. 3. 7 (火)	策定委員・調査部員による小砂子・早川地区の調査	小砂子・早川地区の景観、歴史、食文化の調査
H29. 5. 7 (日)	調査部員が海方面における歴史文化調査	小砂子～木ノ子周辺の歴史文化素材の写真等記録を作成



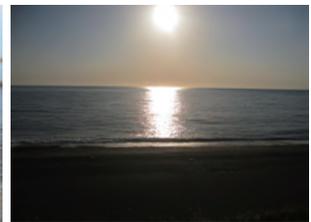
神の道周辺の地形説明会



道の駅上ノ国もんじゅと文珠岩



海で遊ぶ子ども



大安在浜の夕日



昇平丸の模型



十兵衛岩



扇石岩



滝沢神社



汐吹地区でのてっくい祭り



汐吹岩 (上) とモニュメント (下)



中外鉦山の溶焼炉跡



石崎漁港トンネル



比石館跡



ホッケを干す風景



小砂子地区のけんちん汁 (左) と料理を作ったおかあさん (右)



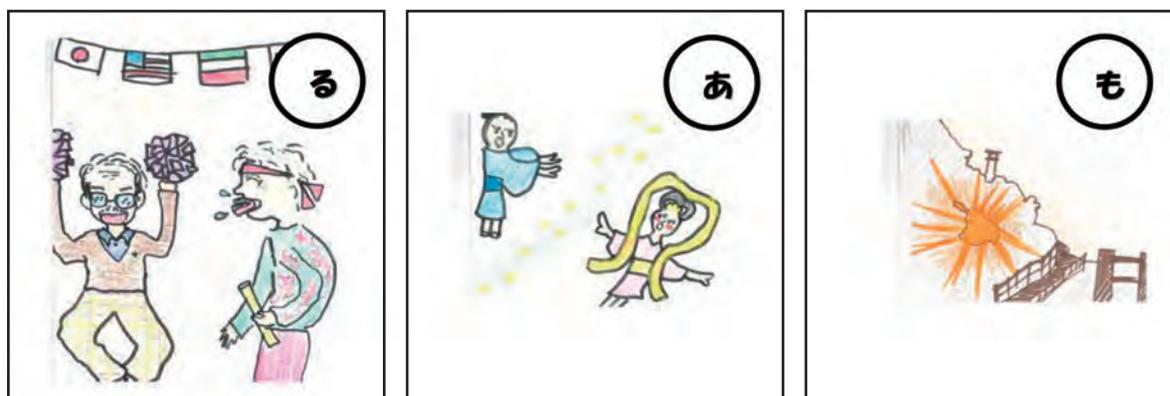
(3) 上ノ国高校生によるマイ文化財かるた

上ノ国高校の生徒を対象としたマイ文化財調査においては、収集した情報をもとに、「上ノ国かるた」の制作に取り組んだ。

あ	天の川 織姫彦星 あいの場所	は	花沢館 蠣崎季繁 つくったよ
い	夷王山 見守っている この町を	ひ	火祭りの 夜空に輝く 花火かな
う	海の町 たくさんとれる 海の幸	ふ	フルーツを 食べたブタさん おいしいよ
え	蝦夷地とは ここが始まり 上ノ国	へ	平和をね 求めて暮らした 勝山館
お	大留の 男が代々 鹿子踊り	ほ	北海道 発祥の地は 上ノ国
か	上ノ国 人情たくさん 良い町だ	ま	満面の 笑みがあふれる 上ノ国
き	北前船 積荷のニシンが 石になる	み	未来がね あふれているよ 上ノ国
く	クジラ汁 一回食べたら やみつきに	む	昔から 変わらないよね 上ノ国
け	健康を 大事にしている 上ノ国	め	目に見えて たくさん広がる 大自然
こ	コシャマイン アイヌの英雄 立ち上がれ	も	もんじゅから 穴をくぐると 太平山
さ	笹浪家 昔の体験 こうれん焼き	や	やっぱりね 元気なんだよ お年寄り
し	昇平丸 木造最古の 西洋船	ゆ	夕方に 光り輝く 夜明けの塔
す	洲崎館 二人が暮らした 夢の城	よ	夜空より 輝いてるよ おばあちゃん
せ	セミが鳴く 緑がしげる 花沢館	ら	ラストッペ 漁火輝く 夏の夜
そ	祖廟詣で 三社に参る お殿様	り	りんごなり 園児がいっぱい 食べている
た	たくさんの 歴史あふれる 上ノ国	る	ルンルンと 年寄り元気に 運動会
ち	中外の 昔栄えた 鉱山跡	れ	歴史ある 緑あふれる セツ岳
つ	つみれ汁 ホッケのすり身が 入ってる	ろ	六体の 優しいお顔の 円空さん
て	てっくい井 食べたらしあわせ おいしいな	わ	ワシリの地 堀を巡らせ 住みし跡
と	とてもきれい 光るホテルと 澄んだ空	を	ヲッコセに 小山隆政 夢の跡
な	セツ岳 上まで登れば 絶景だ	ん	んだんだと 伝統伝える 金子さん
に	ニシン達 (タヅ) 達 帰ってきたぞ 日本海		
ぬ	沼がある しかしどこだか わからない		
ね	猫の沢 昇平丸が 沈んでる		
の	のんびりと スキップるんるん おばあちゃん		



高校生カルタの取り組みの様子



高校生が考えたかるたの言葉をイメージして、町内の人たちが描いたイラスト

3. 調査成果

(1) マイ文化財一覧

●マイ文化財一覧（中央方面・上ノ国、大洞、勝山、大留、向浜、北村、内郷）

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
1	円空作 十一面観音立像	上ノ国	歴史	有形	○		○		道有形	上ノ国観音堂にある円空仏。140cmを超える大作で、北海道で一番大きい。
2	円空作 観音座像	上ノ国	歴史	有形	○		○		町有民	観音堂の十一面観音立像の横にひっそりとあり、首が取れて無くなっているが、子供に愛された観音座像である。
3	上ノ国観音堂	上ノ国	歴史	有形	○		○			観音講と呼ばれる人達によって、円空仏を守るお堂として大切に受け継がれている。
4	感冒死亡者追悼碑	上ノ国	歴史	有形	○					大正9年春に町内で流行したスペイン風邪の犠牲者を追悼するために建立された。
5	上ノ国八幡宮本殿	上ノ国	歴史	有形			○		道有形	室町時代に勝山館内に建立されていたが、明治9年に地域住民の手で現在地に遷す。大蔵録伝説の若宮社を合祀する。
6	重要文化財 旧笹浪家住宅	上ノ国	歴史	有形	○	○	○	○	国重文	江戸時代から続くニシン漁の網元で、約200年前に建てられた北海道の木造建築では最も古い民家である。
7	清浄寺本堂	上ノ国	歴史	有形	○				町有形	松前尊念寺によって創立された掛所道場の一つで尊念寺10世了幻の時の明和3年に落成。明治5年に公許を得て清浄寺となる。
8	量倉	上ノ国	歴史	有形	○					昔から火災や災害が多く、大切な漁具や農具などを入れる為山の中腹に沢山建てられ「倉町」「倉が丘」とも呼ばれていた。
9	擦文人骨	上ノ国	歴史	有形	○					平成7年に上ノ国市街地遺跡から発見される。
10	御徒士行列（やさたり）	上ノ国	歴史	無形	○					上ノ国が藩祖である武田信廣の地であることから、松前藩から村人が1年に1度武士の格好を許されたことに由来する行列。
11	上ノ国祖廟詣	上ノ国・北村	歴史	無形			○			江戸時代、松前藩主になると、藩祖の地である上ノ国の毘沙門堂（砂館神社）、館神八幡宮、夷王山神社を参拝に訪れた。
12	天の川と戦国時代の山城を訪ねるみち	上ノ国	歴史	遺跡	○				新日本紀行歩く道・文化の道100選	旧上ノ国駅から勝山館跡を経由して道の駅「上ノ国もんじゅ」までのコースで、平成27年9月に指定。
13	上ノ国遺跡	上ノ国	歴史	遺跡	○					縄文時代晩期の「上ノ国式土器」の標識遺跡。
14	上ノ国市街地遺跡	上ノ国	歴史	遺跡	○					縄文～近世までの遺物包含地。中世には、花沢館跡・勝山館の町屋として機能していた。
15	上國寺の黒横伝説（6体地蔵）	上ノ国	歴史	伝説	○					細川頼という女性が、1体40キロほどある石像6体を一度に江差から上國寺まで一人で運んだという伝説。
16	若君の金魚	上ノ国	歴史	伝説	○					明治元年、松前藩主一行が松前城から館城に移動する際に旧笹浪家住宅で休息をとる。その際、むづかる四歳の若君が金魚と遊び暫く和んだ。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
17	天の川河口の砂州・砂嘴	上ノ国	自然	海浜	○					天の川から運ばれた砂や礫が海岸線に平行して流れる沿岸流によって海岸に堆積してできた地形。増水時には形状を変える場合もある。
18	天の川橋付近にのぼる鮭	上ノ国	景観	景観				○		秋になると天の川橋周辺で遡上する鮭を確認できる。
19	上ノ国から見える江差の景色	上ノ国	景観	景観			○			日本海に突出するカモメ島を見ることができている。
20	船玉神社（厳島神社）の夕日	上ノ国	景観	景観	○					厳島神社。上ノ国八幡宮の末社。
21	天の川の遊歩道	上ノ国	景観	場所	○					天の川沿いの遊歩道。
22	上ノ国八幡宮の黒松、榎、杉	上ノ国	いのち	植物	○					町指定名木
23	上國寺の桜、黒松、榎	上ノ国	いのち	植物	○					町指定名木
24	清浄寺の黒松、イチヨウ、ヤマイタヤ	上ノ国	いのち	植物	○					町指定名木
25	蛭子山（上ノ国）	上ノ国	まつり	伝統	○					山車。山車の人形は蛭子様。上ノ国地区の中でも川尻地区の人が主となり運行される。
26	上ノ国の山車のきり声	上ノ国	まつり	伝統	○					主に上ノ国八幡宮渡御祭の時に、信広山、蛭子山の両頭取が各家々をまわり唄われる。
27	上ノ国八幡宮渡御祭	上ノ国	まつり	伝統	○					以前は9月14日、15日の例祭に併せ行われていたが、現在は14日以降の最初の土日に開催される。
28	上ノ国八幡宮の神楽	上ノ国	まつり	伝統	○					上ノ国八幡宮に伝わる神楽。松前神楽の流れをくむが、舞の名称は松前神楽と異なる。
29	信廣山（上ノ国）	上ノ国	まつり	伝統	○					山車。山車の人形は武田信広。昭和40年代まではアイヌの人形を従えて曳行されていた。
30	上ノ国昔踊り	上ノ国	まつり	伝統	○					戦国時代、戦に勝利した際に踊られたことが由来。江差のサメ踊りなどの原型とも言われる。
31	信廣山の人形の甲冑	上ノ国	まつり	伝統	○					
32	大潤遺跡	大潤	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（住吉町上層式・海岸段丘）、土器、石器
33	上ノ国漁港遺跡	大潤	歴史	遺跡	○					海底遺跡、中世・近世、陶磁器（伊万里焼、唐津焼ほか）
34	神の道の船止め跡	大潤	歴史	遺跡	○					神の道の所々に人為的に掘られた穴がある。船を繋ぐための杭が打たれていたと思われる。
35	オフトの穴	大潤	歴史	伝説			○			太陽光が入ると竜神様が来たように光る。大平山の穴に繋がっていると言われている。
36	龍神様のひかり（龍燈伝説）	大潤	歴史	伝説	○					海の神「龍神」が太平山の山の女神に逢いに、「龍燈」となって八幡牧野を通っていくという伝説。
37	大潤ノ崎	大潤	自然	海浜	○					ポットホールなどのジオサイトがある。
38	窓岩	大潤	自然	海浜	○					立待の犬滑り穴といい、太平山の洞穴につながっているともいわれる。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
39	文珠浜	大潤	自然	海浜	○					神の道や文殊岩など絵になる場所が多い。
40	大潤の浜	大潤	自然	海浜	○					上ノ國八幡宮のどんと焼きや空手少年団の寒稽古が行われる。
41	ハイアロクラスタイト（水中破砕岩）	大潤	自然	海浜	○					マグマが水に急冷されてできた細かい砕屑粒子を主体とする岩石。
42	ポットホール（甌穴）	大潤	自然	海浜	○					岩盤にできる円筒形の穴で、岩のくぼみや割れ目に小石が入り込み、回転して深く削られたもの。海浜で確認されるのは珍しく、日本最大級の大きさ。
43	枕状溶岩	大潤	自然	海浜	○					溶岩流が水中で冷却固結した岩体の一種で神の道周辺で確認することができる。
44	夷王山神社	勝山	歴史	有形	○			史跡内		永禄元（1558）年創立。医王山神社、医王山薬師堂と称していたが、明治26年に現在の名称に。祭神は武田信広。松前家の崇敬の念厚く、歴代藩主が祖廟詣をした。頂上からの眺めは絶景。
45	勝山館跡ガイダンス施設	勝山	歴史	有形		○		史跡内		勝山館からの出土品やアイヌや和人の墓のレプリカなどを展示、歴史ビデオもみられる。平成17年開設。
46	重要文化財「北海道上之國勝山館跡出土品」	勝山	歴史	有形	○			国重文		勝山館跡から出土品のうち、陶磁器や木製品など921点が平成20年7月10日に指定されている。
47	重要文化財 上國寺本堂	勝山	歴史	有形	○			国重文		永禄年間（1558～1570）に武田信広の菩提を用うために開創。現存する本堂は宝暦8（1758）年建立。北海道で最も古い寺院建築。
48	書 裏書輪鳴屋太左衛門3	勝山	歴史	有形	○			町有形		安政2（1855）年の松前藩領の上知に際し、復領運動に奔走した有力者等に、安政4年の復領時に藩主松前崇広より下賜されたもの。
49	書 裏書輪鳴屋太左衛門4	勝山	歴史	有形	○			町有形		安政2（1855）年の松前藩領の上知に際し、復領運動に奔走した有力者等に、安政4年の復領時に藩主松前崇広より下賜されたもの。
50	書 松前氏13代道広筆	勝山	歴史	有形	○			町有形		道広が上ノ國八幡宮に奉納、社宝として拝殿に飾られている。
51	書 松前氏14代章広筆2	勝山	歴史	有形	○			町有形		章広が天保3（1832）年町内字石崎の牧場を巡視の時読んだ俳句3句が記されている。上ノ國八幡宮の社宝。
52	史跡上之國館跡 花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡	勝山・北村	歴史	遺跡	○	○	○	国史跡		昭和54年に花沢館跡と勝山館跡が、平成18年に洲崎館跡が国の史跡として指定された。
53	勝山尋常小学校跡	勝山	歴史	遺跡	○			史跡内		明治11年に上國寺庫裏で開校し、翌年に校舎が建設。大正3年に砂館小学校などと統合し上ノ國第一尋常小学校となる。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	大人	世代別			指定等	備考
						大学	高校	中学		
54	夷王山墳墓群（勝山館跡）	勝山	歴史	遺跡	○				史跡内	約650の墳墓が確認されており、アイヌ墓も発見されている。
55	荒神堂跡（勝山館跡）	勝山	歴史	遺跡	○				史跡内	勝山館城代の嶋崎基広が謀反を企てたが、四世季広に露見し討ち取られる。その後、亡霊となつて勝山館に現れ、暴れまわつたため、遺骨を埋めたあたりに墓を作り、堂を建てて祀った。
56	館神八幡宮跡（勝山館跡）	勝山	歴史	遺跡	○				史跡内	文明5（1473）年に武田信広が創建した館神。麓の若宮社が拝殿を兼ねた。明治9年に現在の上ノ國八幡宮に移された。松前家の崇敬の念厚く、歴代藩主が祖廟詣をした。
57	檜山番所跡	勝山	歴史	遺跡	○				史跡内	地域の檜を管理するため慶長元（1596）年に設置されたといわれている。延宝6（1678）年に江差に移った。
58	上之国館跡	勝山	歴史	遺跡	○				史跡	遺物包含地、中世
59	十兵衛沢遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（前・中期）
60	十兵衛沢B遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（前・中期）、縄文土器（円筒式下層・上層）、石冠、石斧、石匙、石鏃
61	ばんの沢遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（中後期）、縄文土器（円筒上層式、余市式、野幌式）、長大な石鏃、石斧、土器
62	四十九里沢A遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（後期・晩期）、縄文土器（野幌式、大洞C2）、石斧、石鏃、石棺、石匙
63	大潤下遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地、擦文、土器
64	市街地後方A遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地、土器形式不明、土器数点
65	お浪沢A遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（晩期）、縄文土器数点、鉄刀4本、刀鏢6点、陶磁器2点、人骨
66	小岱遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（後期）
67	檜ノ沢遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地、擦文、縄文土器（円筒式上層）
68	勝山館遺跡	勝山	歴史	遺跡	○				史跡内	遺物包含地、縄文（前・中期）、縄文土器（円筒下層式、上層式）、石器
69	四十九里沢B遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（中・後期）、縄文土器（余市式、野幌式、入江式）
70	お浪沢B遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（中期）、縄文土器（円筒式、上層式）
71	ほど長根A遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（後期）、縄文土器（野幌式）
72	部落島遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地
73	大岱遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（後・晩期）
74	宮の沢遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地
75	十兵衛沢C遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
76	上之国館跡・花沢館跡	勝山	歴史	遺跡	○				史跡内	館跡、蠣崎季繁が15C中頃に築城。
77	大岱B遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地
78	大岱沢A遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地
79	大岱沢B遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地
80	市街地後方B遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地
81	ほど長根B遺跡	勝山	歴史	遺跡	○					遺物包含地
82	赤坂と足洗川	勝山	歴史	伝説	○					長禄元(1457)年に蝦夷の軍と武田信広が八幡野で戦を展開し、信広の千人斬り伝説がある。松前から上ノ国への近道で、旅人は草履に付いた赤坂の赤土を小川ですすぎ落してから旅をつづけた。
83	大蔵鯨	勝山	歴史	伝説	○					「東遊記」蝦夷喧嘩辞弁などにも記載がある伝説。鯨の群衆がないため大蔵卿が祈禱すると鯨が群衆した。だが地域の人たちが否定したため、大蔵卿は食べ物を絶って死に、翌年は群衆しなかった。
84	夷王山	勝山	自然	山		○	○	○	史跡内	標高159メートルで、山頂には夷王山神社が建てられている。檜山地域沿岸や奥尻島を望むことができる。
85	夷王山山頂からの眺望(夜景)	勝山	景観	景観	○				史跡内	大潤周辺・江差方面の夜景・漁火を見渡す事ができる。
86	夜明けの塔とその眺望	勝山	景観	景観		○	○	○		開基800年を記念して建てられた塔で高さ800寸(24.24m)。海岸段丘の上であり、360度見渡すことができる。
87	風車のある風景	勝山	景観	景観			○	○		夜にキラキラ光っているのがきれい、いつも回っている
88	花沢公園	勝山	景観	場所	○					5月になると八重桜が満開となり、お花見の人気スポット。
89	上ノ国漁港	勝山	景観	場所				○		昭和61年に竣工。漁港の整備に際して、昭和58、60年に海中の遺跡調査が行われた。
90	花沢温泉	勝山	景観	場所	○		○	○		平成7年3月に温泉開発に成功し、平成9年8月に簡易浴場が開設される。泉質は弱アルカリ性低張性高温泉。
91	特別養護老人ホームからの景色	勝山	景観	景観				○		天の川橋を見下ろす高台に位置していることから、見渡しがよい。
92	夷王山を愛する会の公園	勝山	景観	場所	○					夷王山を愛する会が手入れをしている公園。町内外の様々な人たちがつつじを植樹している。
93	天の川橋の12星座パネル	勝山	景観	場所	○					平成7年8月3日(旧暦7月7日)に開通した天の川橋の欄干に飾られている。
94	天の川橋親柱の上にある彗星像・羽衣像	勝山	景観	場所	○					米坂ヒデノリ作の彫刻で平成7年8月3日(旧暦7月7日)に開通した天の川橋の親柱の上に飾られている。
95	夷酋タナケシ	勝山	いのち	人	○					アイヌの酋長。享禄2(1529)年に瀬田内を攻略し、勝山館に攻め入るも討ちとられる。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考	
					大人	大学	高校	中学			小学
96	勝山館跡の植物	勝山	いのち	植物			○			史跡内	勝山館跡周辺では、500種を超える植物が確認されている。
97	花沢公園の八重桜	勝山	いのち	植物				○	○		5月の初旬から中旬にかけて満開となる。
98	花沢館跡の植物	勝山	いのち	植物			○				エゾタンポポなどが見ることができ。
99	荒神堂のイチイ	勝山	いのち	植物	○						勝山館跡に通じる道沿い、荒神堂付近で確認できる。
100	コシヤマイン慰霊祭(カムイノミ)	勝山	まつり	伝統	○						コシヤマインなど和人に討たれたアイヌを慰霊するため平成5年から夷王山で7月第一土曜に実施。
101	上之国館調査整備センター(旧上ノ国中学校)	大留	歴史	有形	○						昭和22年に上ノ国小学校内で開校し昭和26年に校舎が建築。平成8年3月で閉校となり、その後、調査の拠点となる。
102	アイヌ絵巻	大留	歴史	有形	○					町有形	旧笹浪家に伝わるアイヌ絵巻。
103	蝦夷錦袱紗(ふくさ)	大留	歴史	有形	○					町有形	ホシヤマニ笹浪家が所蔵。アイヌがツングース系民族を介して交易を行っていた清の満州風の錦である。
104	円空作 阿弥陀如来像	大留	歴史	有形	○		○			町有形	明治初期に海中から拾得保管されたもの。のちに町へ寄付され笹浪家に展示されている。
105	大山神社(山神社)	大留	歴史	有形	○						寛政4(1792)年の創祀で明治17年に再建された。合併により合祀された歴史をもつ御祭神。祭神は大山祇命、倉稲魂命。
106	絵画 裏書輪嶋屋太左衛門1	大留	歴史	有形	○					町有形	安政2(1855)年に松前藩領が幕府直轄地となった際に、復領運動に奔走した有力者等に、安政4年の復領時に藩主松前崇広より下賜されたもの。
107	紺糸威胴丸	大留	歴史	有形	○					町有形	胴丸とは、構造上着用品が簡便で軽快な武装具で、江戸時代中期、宝暦頃のものとなされる。松前藩主着用のもので推察される。
108	書 裏書輪嶋屋太左衛門1	大留	歴史	有形	○					町有形	安政2(1855)年に松前藩領が幕府直轄地となった際に、復領運動に奔走した有力者等に、安政4年の復領時に藩主松前崇広より下賜されたもの。
109	書 裏書輪嶋屋太左衛門2	大留	歴史	有形	○					町有形	安政2(1855)年に松前藩領が幕府直轄地となった際に、復領運動に奔走した有力者等に、安政4年の復領時に藩主松前崇広より下賜されたもの。
110	書 松前氏14代章広筆1	大留	歴史	有形	○					町有形	松前藩領上知を解かれ梁川より帰国した章広が復領奉養のため八幡宮に奉納したものである。
111	アイヌ服・チカルカルペ1	大留	歴史	有形	○					町有形	生地は厚手の綿木綿。裏に「西川賢作」の記載あり。衿と袖口文様は樺太のアイヌ衣服であるアットウシに似ている。
112	アイヌ服・チカルカルペ2	大留	歴史	有形	○					町有形	茶格子木綿生地のアイヌ服。衿や刺繍糸・縫い糸・切り伏生地は紺木綿を使用。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考	
					大人	大学	高校	中学			小学
113	アイヌ服・チカルカルベ3	大留	歴史	有形	○					町有形	木綿生地、アイヌ服。切り伏生地は古い紺木綿。
114	テトラパ	大留	歴史	有形	○					町有形	生地はイラクサまたは麻。切り伏生地は紺木綿。刺繍糸は白、紺木綿。縫い糸はイラクサ、白木綿裏に「上ノ国六年笹浪キサ(旧笹浪家11代当主久英氏の母)」の記載あり。
115	マエタレ2	大留	歴史	有形	○					町有形	ニレ科のオヒョウウの繊維から作ったアイヌの女性の前掛け。裏に「上ノ国六年笹浪キサ(旧笹浪家11代当主久英氏の母)」の記載あり。
116	マエタレ3	大留	歴史	有形	○					町有形	ニレ科のオヒョウウの生地から作ったアイヌの女性の前掛け。裏に「西川賢作」の記載あり。
117	絵画 裏書輪鳴屋太左衛門2	大留	歴史	有形	○					町有形	安政2(1855)年に松前藩領が幕府直轄地となった際に、復領運動に奔走した有力者等に、安政4年の復領時に藩主松前崇広より下賜されたもの。
118	上ノ国小学校	大留	歴史	有形	○						勝山尋常小学校の流れをくむ。現在の校舎は昭和62年に完成。
119	新村遺跡	大留	歴史	遺跡	○						遺物包含地、縄文(中・後期)、縄文土器、石斧、石鏃、石匙、石冠
120	目名の沢	大留	自然	川	○						天の川の支流、目名川の源流となる沢。以前はヒバの産地。
121	カササギロード(ヒメリンゴ街道)	大留	景観	景観		○	○	○			平成8年の天の川橋の架け替えに併せ、上ノ国駅前から清浄寺までの1.8kmの区間が整備された。その際にヒメリンゴが植えられる。
122	健康づくりセンターの山	大留	景観	場所				○			健康づくりセンターが建てられたときに造成された小山。
123	中崎公園	大留	景観	場所			○	○			遊びやすく楽しい。
124	たぬき通りの鳥居より	大留	景観	場所	○						たぬき専用のサイズ。木製ベンチも優しい。
125	パークゴルフ場の散歩コース	大留	景観	場所			○				平成10年に整備された散歩コース。
126	ジョイ・じょぐら	大留	景観	場所			○				町の総合福祉センターの愛称で、平成7年竣工。
127	体育館	大留	景観	場所			○				新しい町の体育館。平成30年7月開設予定。
128	サイカチの木	大留	いのち	植物	○						枝先にサヤがぶら下がる。昔はこのサヤを石蔵代わりに馬の体を洗っていた。もともとは中須田にあったが、道路工事により役場庁舎裏に移植される。町指定名木
129	大留鹿子舞	大留	まつり	伝統	○			○		町無民	大留・山神社の創建時より奉納されていた鹿子舞。
130	大山神社例大祭	大留	まつり	伝統	○						祭神をオオヤマツミノミコト(大山祇命)とし、毎年9月11、12日に祭典が行われ、無病息災、家内安全等が祈願される。
131	楠公山(大留)	大留	まつり	伝統	○						山車。明治7年頃の制作とされ、江差町津花町より譲り受けたもの。名称もそのまま使用。管理、運行は大留奉賛会が担う。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
132	エゾ地の火祭り	大留	まつり	現代	○	○	○	○	○	食べ物もおおいしく、花火もきれい。3地区の山車が集まり盛り上がる。松明と花火の迫力は圧巻！
133	産業まつり	大留	まつり	現代			○	○		昭和57年から10月第1日曜日に開催される。町内の事業者が数多く出店する。
134	食遊祭	大留	まつり	現代			○	○		町内飲食店の名物料理が一同に会するイベントで平成20年から行われている。
135	川裾神社	向浜	歴史	有形	○					天保2（1832）年創立し、昭和44年まで上ノ国八幡宮の末社。祭神は伊邪那岐命。
136	向浜A遺跡	向浜	歴史	遺跡	○					遺物包含地
137	向浜のけあらし	向浜	自然	海浜	○					厳寒の朝、凍結しない海面や川面に白く立ち上る霧が見ることができ。
138	天の川（見どころ）	向浜	自然	川	○	○	○	○		渡島山地の分水嶺に源を発する、流域延長28.6kmの二級河川。名称は宣教師アンジェリスが地図に天河と記したことに由来する。
139	天の川河口部のハマナス群生地	向浜	いのち	植物	○					河口部右岸に分布する。
140	アッシ	北村	歴史	有形	○					紺本綿製の生地の織物。生地はオヒョウ。
141	円空作 観音座像	北村	歴史	有形	○		○			砂館神社内に安置されていたが、明治4年の神仏分離令の際に地域の人に匿まれ、後日北村地藏庵に移された。
142	砂館神社本殿	北村	歴史	有形	○					創立が寛正3（1462）年と言われ、北海道史最初の記録に現れた神社で松前藩の崇敬も深い。安永7（1778）年に一度焼失し、翌年に再建されたものが現在まで残る。
143	地藏庵（江差正覚院末寺）	北村	歴史	有形	○					宝永6（1709）年、江差正覚院四世知雄和尚の創立。庵内（建物）には円空仏が置かれている。
144	短刀及び拵え一式	北村	歴史	有形	○					旧笹浪家所蔵品であり、江戸時代における上ノ国の歴史を知る上で貴重である。
145	マエタレ1	北村	歴史	有形	○					二レ科のオヒョウの織維から作ったアイヌの女性の前掛け。裏に「西川賢作」の記載あり。
146	砂館尋常小学校跡	北村	歴史	遺跡	○					明治15年11月に開校し、砂館神社境内に校舎が建つ。大正3年に上ノ国第一尋常小学校に統合される。
147	上之国館跡 洲崎館跡	北村	歴史	遺跡	○					館跡、武田信玄が長祿元（1457）年に築城したとされる。
148	北村遺跡	北村	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（前・中・後・晩期）
149	炭焼沢遺跡	北村	歴史	遺跡	○					遺物包含地
150	安在平遺跡	北村	歴史	遺跡	○					遺物包含地
151	水車小屋遺跡	北村	歴史	遺跡	○					遺物包含地

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
152	洲崎A遺跡	北村	歴史	遺跡	○					遺物包含地
153	洲崎B遺跡	北村	歴史	遺跡	○					遺物包含地
154	洲崎C遺跡	北村	歴史	遺跡	○					遺物包含地
155	古櫃の浜	北村	歴史	伝説	○					寛政3(1462)年の夏、洲崎の西の沖に光を放つものが現れ、古櫃が岸辺に流れ着いた。中身が黄金の毘沙門像が現れたことから、武田信広はこれを厚く尊信し、一社を建てて祀った。
156	天の川の大蛇	北村	歴史	伝説	○					松前家三世義広は弓の名手として戦功をあげたが、天の川の大蛇を射止めてから、当たらなくなった。
157	フルーツパーク	北村	食文化	現代		○	○			有限会社ささなみが生産する豚肉。フルーツとミルク、ヨーグルトを与えて育てており、肉質が柔らかくクリーミーで肉独特の臭みもない。
158	洲崎館のある砂丘	北村	自然	海浜	○				史跡内	洲崎館跡がある一帯は砂地であることから、砂館神社の名前の由来となった可能性がある。
159	滝本たつひこ	北村	いのち	人			○			小説家。「ネガティブハッピー・チェーンソーエッヂ」で第5回角川学園小説大賞特別賞を受賞。
160	砂館神社例大祭	北村	まつり	伝統				○	史跡内	9月2、3日に行われる。以前は行列も巡行していたが、現在は門払いのみ実施。神輿も境内に保管されている。
161	大黒山(北村)	北村	まつり	伝統	○					山車。大黒様の人形を飾る。建造年は不明も昭和50年代に改修している。管理運行にかかる一切を大黒山保存会が担う。
162	内郷坂遺跡	内郷	歴史	遺跡	○					遺物包含地
163	内郷浜(見どころ)	内郷	自然	海浜	○					天の川河口から江差町五勝手漁港まで砂浜が続く。
164	あすなろ湖からカヌーで見る奥の景色	内郷	景観	景観				○		
165	あすなろ湖手前の目名沢川と水草	内郷	景観	景観				○		
166	上ノ国ダム(あすなろ湖)	内郷	景観	場所			○			目名川上流に江差町の水がめとして平成12年に完成し、ダム湖はあすなろ湖と命名される。
167	甚之丞杉	内郷	いのち	植物	○					目名川上流、厚沢部町との町境付近にヒバが自生しており、ヒバの伐採後に杉が植えられた。延享2(1745)年に植樹した記録あり。町指定名木
168	ヒバ自生林	内郷	いのち	植物	○					目名川上流で、厚沢部町との町境付近に自生している。

●マイ文化財一覧（山方面・中須田、新村、豊田）

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別					指定等	備考
					大人	大学	高校	中学	小学		
169	中須田・稲荷神社	中須田	歴史	有形	○						文政7（1824）年創立で祭神を倉稲魂命。
170	さいかち屋敷	中須田	歴史	有形	○						代々新六を襲名した布施家があり、家の前に皂莢（さいかち）の大樹が茂っていたので皂莢屋敷と呼ばれている。
171	中須田観音堂	中須田	歴史	有形	○						文政5（1822）年の造立で、観界夢遊（清五郎）作の観音像が安置されている。
172	中須田馬頭観音の石碑	中須田	歴史	有形	○						昔、農家では、農耕作業のため馬を飼育しており、家族同様に扱われていた。その供養のために建立された。
173	京谷家のニシン漁具	中須田	歴史	有形	○						江戸時代末期から大正にかけてのニシン漁で使用された漁具。この構想がきっかけで所蔵されていたことが判明。
174	河北小学校	中須田	歴史	有形							明治18年開校し、昭和61年に現校舎が完成する。
175	金子鶴雄さんの縄ない技術	中須田	歴史	無形		○					縄ない技術を有している数少ない継承者のひとり。
176	河北中学校跡	中須田	歴史	遺跡	○						昭和22年に桂岡で開校し、昭和29年に校舎が落成する。平成8年3月に閉校し、校舎は平成21年に取り壊される。
177	名伯楽・布施新六伝	中須田	歴史	伝説	○						中須田に、代々新六を襲名した布施家で、明治中頃に亡くなった新六は、馬を見る名人で馬の神様と言われた。
178	久末さんのキノコ栽培	中須田	食文化	現代					○		シイタケ・干しシイタケ・キクラゲなどを栽培する。
179	ニオウ（にお）積み	中須田	景観	景観	○						収穫した農作物を自然の力で乾燥させるために行う。機械乾燥が主流とだが、現在も数件の農家が実施している。
180	中須田神社の黒松	中須田	いのち	植物	○						町指定名木
181	イチゴ	中須田	いのち	植物					○		上ノ国の果物はとても甘くて美味しいから。
182	ジャガイモ	中須田	いのち	植物					○		町の代表的作物の一つで、町内一円、特に天の川流域沿いで多く栽培されている。
183	新村稲荷神社	新村	歴史	有形	○						明治17年9月創祀で祭神は、倉稲魂命。
184	新村久兵衛翁顕彰碑	新村	歴史	有形	○						明治初頭に新村周辺など天の川流域で水田開発を行った新村久兵衛を称えるため昭和27年に建立された。
185	新村2遺跡	新村	歴史	遺跡	○						遺物包含地
186	新村3遺跡	新村	歴史	遺跡	○						遺物包含地
187	新村4遺跡	新村	歴史	遺跡	○						遺物包含地
188	豊田西遺跡	新村	歴史	遺跡	○						遺物包含地
189	豊田西2遺跡	新村	歴史	遺跡	○						遺物包含地
190	新村稲荷神社例祭	新村	まつり	伝統	○						毎年9月10日に行われている。
191	豊山（新村）	新村	まつり	伝統	○						もともとは江差町内で使われていた山車で後に、昭和63年に寄贈を受ける。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
192	豊田・稲荷神社	豊田	歴史	有形	○					明治17年以降の創立で祭神は倉稲魂命と大國魂命。
193	豊田遺跡	豊田	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（後期）
194	豊田B遺跡	豊田	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（中・後期）
195	豊田C遺跡	豊田	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（中・後期）
196	豊田D遺跡	豊田	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文
197	瓦場遺跡	豊田	歴史	遺跡	○					遺物包含地
198	石山遺跡	豊田	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（後期）
199	豊田E遺跡	豊田	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文、縄文土器片140点、石器14点、フレーク26点、石冠1点、石鏃1点

●マイ文化財一覧（山方面・桂岡、小森、早瀬、宮越）

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
200	愛宕神社（桂岡神社）	桂岡	歴史	有形	○	○				天和元（1681）年創立。祭神は火産霊命、倉稲魂命、大山祇命。伊勢海老彫刻・神社前の直線道路も珍しい景観。
201	桂岡墓地の地蔵7尊	桂岡	歴史	有形	○					
202	桂岡地区にある天保年間の墓石	桂岡	歴史	有形	○					もともとは愛宕神社境内の環状の盛りの盛り土内にあつたものが移されたと言われている。
203	南條氏（安右衛門）の墓	桂岡	歴史	有形	○				町有形	南條安右衛門の墓と伝えられている。南條家の祖季継は知内町の脇本の館主と知られ、後に子孫は松前家に仕えた。安右衛門包元は享保18（1733）年から寛保2（1742）年まで寺社奉行を勤めた。
204	観音講（桂岡）	桂岡	歴史	無形	○					毎月18日に観音様を祀っていたが、昭和末期に世話人が亡くなってから行われなくなり、観音の掛け軸は江差の金剛寺に納めた。
205	鬼子母神講（桂岡）	桂岡	歴史	無形	○					8日が鬼子母神さんの日であるので、3月8日に地区の女性の皆さんが揃って営まれる。講員は法華寺の檀家が多い。
206	地蔵講（桂岡）	桂岡	歴史	無形	○					3月中旬に地区の女性があつまり、地蔵を地区の集会施設まで運んで、洗ったり、衣装や前掛けを取り換え、供え物をする。
207	愛宕山遺跡	桂岡	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（早・前・中・後・晩期）、縄文土器（住吉、円筒下層、上層、野幌式、亀ヶ岡）、石鏃、石匙、石斧、石錘
208	桂岡遺跡	桂岡	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（後・晩期）、石匙、石鏃、石斧、石棒

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
209	ワラビ岱遺跡	桂岡	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（後期）、縄文土器（野幌式）、石鎌、石小刀、石匙、石刀
210	河北中グラウンド遺跡	桂岡	歴史	遺跡	○					遺物包含地
211	桂岡B遺跡	桂岡	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文
212	ワラビ岱B遺跡	桂岡	歴史	遺跡	○					遺物包含地
213	沼の大蛇（桂の木）	桂岡	歴史	伝説	○					沢の山奥に住む大蛇が海に行くために桂の木を切ってほしいと懇願したが、麓の大洪水を恐れた村人は斧を入れず村々を守った。
214	太平山の穴	桂岡	歴史	伝説	○		○			
215	逆さ水松（伝説）	桂岡	歴史	伝説						謀反を疑われた南条広継が無実を訴えてながら自害するが、その際、棺の上に水松を逆さにいけさせ、根付いたら悪心が無い証と遺言した。
216	キヌサヤエンドウ	桂岡	いのち	植物				○		上ノ国の主要農産物。冷涼な気候が栽培に適していたことから広がった。
217	愛宕神社の逆さ水松	桂岡	いのち	植物	○	○				南条広継が身の潔白を訴えて自ら命を絶つときに棺の上に水松を逆さに植えられたものが根付いたとされる。
218	一井の沢の赤松	桂岡	いのち	植物	○					桂岡と中須田地区の境界付近。
219	桂岡の寸止め松（首切りの松）	桂岡	いのち	植物	○					戊辰戦争終結後、旧幕府軍の兵士と新政府軍の兵士が桂岡で行き会った際、無駄な殺生を避けるため代わりに松の木を切った。
220	愛宕山（山車）	桂岡	まつり	伝統	○					囃子は江差の愛宕山から習ったもの。平成28年に約20年ぶりに曳行された。
221	愛宕神社例祭	桂岡	まつり	伝統	○					8月15日に宵宮、16日に本祭が行われ、山車が巡行する年もある。以前は、8月23日、24日に行われていた。
222	小森墓地の地蔵21尊	小森	歴史	有形	○					立像の6地蔵、奉納された座像や立像の地蔵15尊が小屋の中に安置されている。
223	山神社	小森	歴史	有形	○					創立年代不詳で寛政8（1796）年に再建。近隣にあった太平山神社を昭和49年5月に合祀した。祭神は、大山祇命と少名彦命。
224	観音講（小森）	小森	歴史	無形	○					昭和50年頃まで逢見定雄という行者が、女性を集めて実施していた。現在は途絶えている。
225	籠り講（小森）	小森	歴史	無形	○					草取りがひと段落すると年長の女性が集まって行われていた。神社に初物の農産物を持ち寄り世間話や飲食して過ごした。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考	
					大人	大学	高校	小学			幼児
226	地蔵講（小森）	小森	歴史	無形	○					3月に集会施設に集まり、地蔵の衣替えなどを実施。6体の地蔵は地蔵の道から救ってくれる意味がある。	
227	小森法華堂跡	小森	歴史	遺跡	○					大永元（1521）年、日尋上人が日持聖人の偉業を慕って訪れたとき、小堀（小森）に一字一石が埋められているのに感得し、法華堂を建てた。のちに江差町に移され法華寺となった。	
228	小森遺跡	小森	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（中期）、縄文土器（円筒式、上層式）	
229	伝之丞の鷹くそとんび	小森	歴史	伝説	○					有数の鷹場であった上ノ国。幕末の頃、小森に鷹捕り名人の鈴木伝之丞が捕まえた鷹を献上しようとしたが鷹だったために馬鹿にされた。	
230	厚志内川	小森	自然	川	○					滝や大岩などがある。	
231	赤ダモの木	小森	いのち	植物	○					山神社境内の立木。町指定名木	
232	太平山（山車・小森）	小森	まつり	伝統	○					小森地区で曳行されていた山車。江差町の豊川神社から譲り受けたもので、現在は車庫ごと朽ち果てている。	
233	早瀬・稲荷神社	早瀬	歴史	有形	○					寛政3（1791）年の創建。集会施設ができるまで地区の様々な行事で使われた。吉田家の神号を納む。祭神は倉稲魂命。	
234	早瀬臺地の地蔵6尊	早瀬	歴史	有形	○					墓地入り口にあり、隣にはマニ車がある。	
235	太平山神社	小森	歴史	有形	○					小森・山神社から西側約100メートルにあったが、社地が個人所有のため再建できず山神社に合祀された。その後、山車小屋が建てられた。	
236	地蔵講（早瀬）	早瀬	歴史	無形	○					彼岸の頃に集会施設に集まって実施。昔は、亡くなった人がいた家に地蔵を持って行きおこなっていた。	
237	籠り講（早瀬）	早瀬	歴史	無形	○					9月になると地域の人が神社に籠って、裁縫や藁編み、布団干しなど冬備えを実施していた。戦時中まで実施されていた。	
238	早瀬の虫送り（蟲取り・どろおむし）	早瀬	歴史	無形	○					「どろむし」と言われる田んぼの泥の塊の中にいる虫を細長い木の箱でさらう。	
239	早瀬遺跡	早瀬	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（後期）、縄文土器（亀ヶ岡、大洞式）、石鏃、石匙、石槌、石棒	
240	ぶるぶる（ぶるぶる）	早瀬	食文化	伝統	○					干しシイタケとコンニャクをしょう油と昆布だしで煮て、最後にあんかけ状して完成。上國寺の和尚が命名したと言われる。	
241	桧内の沢支流の滝	早瀬	自然	川	○						
242	桧内沢林道の巨木	早瀬	いのち	植物	○					道道江差木古内線から桧内沢林道に少し入ったところにある。	

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
243	樽神輿（早瀬）	早瀬	まつり	伝統	○					25年位前に2年のみ復活するも、現在は行われていない。樽神輿は処分されている。
244	早瀬稲荷神社の例祭	早瀬	まつり	伝統	○					8月16日に宵宮、17日に本祭が行われている。
245	宮越稲荷神社	宮越	歴史	有形	○					文政11（1828）年に村の鎮守として社を建立された。嘉永2（1849）年に再建、文久3（1863）年に現在地へ遷座した。祭神は倉稻魂命。
246	宮越小学校	宮越	歴史	有形	○					昭和24年に河北小学校宮越分校として開設され、昭和31年に開校。平成10年に閉校。校舎は現在も利用されている。
247	左しゃみせんの墓	宮越	歴史	有形	○					宮越に訪れた左利きの三味線奏者
248	宮越村タント節	宮越	歴史	無形	○					長谷川力雄氏作詞。宮越の街の様子がわかる歌詞となっている。
249	宮越内の沢甚句	宮越	歴史	無形	○					長谷川力雄氏作詞。宮越の歴史が紹介される歌詞となっている。
250	宮越遺跡	宮越	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（後期）
251	大千軒岳	宮越	自然	山	○					上ノ国町と松前町を分ける山。標高1,072m。北海道で最初に一等三角点が設置された山。
252	大千軒岳登山口付近	宮越	景観	景観	○					上ノ国・松前ルート。現時点では上ノ国から行けない。
253	ブナ保護林遠景	宮越	景観	景観	○					厚志内川上流からブナ保護林を見渡した。
254	宮越の田園風景	宮越	景観	景観	○					宮越地区の西側に水田が広がっている。
255	宮越の赤松、カラマツ	宮越	いのち	植物	○					宮越稲荷神社の近くで確認することができる。町指定名木
256	大黒山（宮越）	宮越	まつり	伝統	○					山車。桂岡の長谷川和夫氏が建造。囃子は1種類のみ。少なくとも平成6年頃までは運行されていた。
257	宮越稲荷神社例祭	宮越	まつり	伝統	○					9月8日、9日に行われていたが、以前は農作物の取り入れ状況を見てから行われていたという。

●マイ文化財一覧（山方面・湯ノ岱）

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
258	馬頭観音の石碑	湯ノ岱	歴史	有形	○					昔、神明地区の家々で馬を飼っており、その馬の健康を願うため昭和30年代に建立された。
259	三社大神宮	湯ノ岱	歴史	有形	○					明治34（1901）年に上ノ沢へ入植した富江清助氏が個人的に建立し、天照大神、八幡大神、春日大神を祀る。別名富江神社。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
260	神明稻荷神社（豊川稻荷神社）	湯ノ岱	歴史	有形	○					小樽出身の山柳渡辺辰雄が鉄鉱を当てたお礼に昭和28年に神社を建立。神事は姥神大神宮宮司が執り行う。祭神は豊川稻荷。
261	大和産業のチップ工場	湯ノ岱	歴史	有形	○					本社を北斗市に置く。時田製材所として昭和33年頃に開設し、昭和60年頃に大和産業に移行した。
262	山ノ神	湯ノ岱	歴史	有形	○					山仕事に携わる人が崇拜。もともと個人的に祀られたもので、創建は文久3（1863）年。戦後に湯ノ岱稻荷神社に合祀される。
263	湯ノ岱稻荷神社	湯ノ岱	歴史	有形	○					稻荷社の創立は不詳。大山祇命を祀った境内社の創立は文久3年。祭神は、倉稻魂命と大山祇命。
264	湯ノ岱小中学校	湯ノ岱	歴史	有形	○					明治17年に勝山小学校の分校として開校し、大正6年に湯ノ岱尋常小学校となる。昭和33年から昭和43年には上ノ沢分校が開設されていた。中学校は平成8年、小学校は平成27年開校。
265	念仏講（湯ノ岱）	湯ノ岱	歴史	無形	○					ムラで死者が出た時、亡くなった人が出た家で行われた。老若男女問わずみんなで輪になって鉦に合わせて念仏を唱えながら数珠を回した。
266	湯ノ岱地区の造材技術	湯ノ岱	歴史	無形	○					もともとは林業で栄えた地域で、現在も林業従事者が多く住む。
267	湯ノ岱小学校上ノ沢分校跡	湯ノ岱	歴史	遺跡	○					昭和33～42年にかけて開設されていた。上の沢には、第2次世界大戦後の昭和22年から入植が行われていた。
268	湯ノ岱の関所跡	湯ノ岱	歴史	遺跡	○					木古内側との境界にある稲穂峠は難所であったことから、幕府は文化年間（1804～1818）にこの道を改良し、番所を設けた。
269	冷泉跡	湯ノ岱	歴史	遺跡	○					中ノ沢林道より4キロ地点で確認。
270	湯ノ岱遺跡	湯ノ岱	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文
271	上の沢遺跡	湯ノ岱	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文
272	湯ノ岱2遺跡	湯ノ岱	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（後期）
273	湯ノ岱3遺跡	湯ノ岱	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文
274	湯ノ岱の煮しめ	湯ノ岱	食文化	伝統	○					ゼンマイ入り。時期になるとゼンマイを干す風景が見られた。
275	ゼンマイの一本煮	湯ノ岱	食文化	伝統	○					上の沢や膳棚で採ることができ、湯ノ岱地区などで5月から6月にかけてゼンマイを茹でて干す光景が見られる。
276	アユ釣り	湯ノ岱	食文化	現代				○		天の川鮎愛好会がアユの稚魚を天の川の川に放流しており、数多くの釣り人のにぎわっている。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
277	白水の沢橋付近の地層	湯ノ岱	自然	山	○					七ツ岳に向かう途中で、地層が斜めになっている。
278	七ツ岳	湯ノ岱	自然	山	○	○	○	○		標高957mの町境となる山。湯ノ岱小学校の校歌でも唄われており、湯ノ岱地区の人々から愛着がある。
279	七ツ岳の大沼	湯ノ岱	自然	山	○					七ツ岳の山麓にある沼で、沼につながる川はない。
280	七ツ岳の小沼	湯ノ岱	自然	山	○					七ツ岳登山道入口に通じる林道沿いにある。
281	澄川	湯ノ岱	自然	川	○					天の川水系上の沢川上流の川。
282	上ノ沢川	湯ノ岱	自然	川	○					天の川支流。秋の紅葉が見事。
283	上ノ沢の滝	湯ノ岱	自然	川	○					上ノ沢川上流にある。数量は豊富ではない。
284	カタキの滝	湯ノ岱	自然	川	○					下ノ沢林道入口より6.2キロ地点。水量があるが落差は少ない。
285	屏風立川点の溪流と滝	湯ノ岱	自然	川	○					中ノ沢林道入口より8.1キロ地点。落差はないが2段3段と落ちる。
286	右股分線林道の滝	湯ノ岱	自然	川	○					中ノ沢の奥。厚沢部町と境界近くで確認できる。
287	冷泉湧き出し口	湯ノ岱	自然	川	○					下ノ沢林道に入り3.8キロ地点付近で確認。
288	七ツ岳頂上からの景色	湯ノ岱	景観	景観	○					日本海と津軽海峡を見下ろし、好天時は岩木山まで見える。
289	七ツ岳大沼に写る逆さ七ツ岳	湯ノ岱	景観	景観	○			○		水面が波立つことが少ない大沼は、七ツ岳をきれいに写す。
290	湯ノ岱の紅葉	湯ノ岱	景観	景観	○		○	○		湯ノ岱地区周辺は広葉樹で覆われており、秋に色づくとききれいな景色となる。
291	湯ノ岱温泉(上ノ国国民温泉保養センター)	湯ノ岱	景観	場所	○		○	○		江戸時代末期の探検家、松浦武四郎の記録にも残る温泉。保養センターは昭和50年開設。
292	天の川大橋そばにある足湯	湯ノ岱	景観	場所	○					大橋の下流の河川敷地内にあり、冬期間には渡り鳥も越冬している。
293	湯ノ岱スキー場	湯ノ岱	景観	場所			○	○		昭和57年に現在のゲレンデが整備された。
294	湯ノ岱共和会	湯ノ岱	いのち	人	○					明治33年に富江清助氏が入植後、共同作業の交流から親睦が高まり明治44年に設立された。
295	アキグミ	湯ノ岱	いのち	植物	○					綺麗な球状をしていて、地域の人が周辺の手入れを行っている。
296	湯ノ岱トネル近くの桜の木	湯ノ岱	いのち	植物	○					下ノ沢林道に入り3.4キロ地点付近で確認。
297	水芭蕉群生地	湯ノ岱	いのち	植物	○					
298	稲荷山(山車)	湯ノ岱	まつり	伝統	○					昭和27年頃に富江清を中心に行われ、昭和57年頃に扇ねぶた型に改修。山車の前部が舞台で、そこで踊りが披露されていた。
299	湯ノ岱稲荷神社例祭	湯ノ岱	まつり	伝統	○					9月10日、11日に実施されている。

●マイ文化財一覧（山方面・神明、膳棚）

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別					指定等	備考	
					大人	大学	高校	中学	小学			幼児
300	神明小中学校	神明	歴史	有形	○							昭和23年に湯ノ岱小中学校の分校として開設され、昭和25年に開校。昭和52年閉校。校舎は昭和33年建築で、現在まで残る。
301	神明地区の入植の歴史	神明	歴史	無形	○							第二次世界大戦後の昭和20年から入植、開拓される。樺太や満州からの引揚者や町内でも次男三男がこの地で開拓し栄えた。
302	ブラックシリカ	神明	自然	山			○	○				学術上は黒鉛珪石。マイナスイオンを放射する天然石で、神明周辺でしか採掘されない。
303	神明から膳棚の紅葉	神明・膳棚	景観	景観						○		広葉樹が多いことから秋になると燃えるような風景となる。
304	神明の水芭蕉群生地	神明	いのち	植物	○							道道江差木古内線沿いで神明地区への入り口付近で確認できる。
305	仙蔵の沢林道内湧き水	膳棚	自然	川	○							地表から湧き出ている。
306	天の川の段々の滝	膳棚	自然	川	○							道道江差木古内線沿いで、仙蔵の沢林道入り口に近い。
307	ブナ林施業公園	膳棚	景観	場所	○							北海道森林管理局が整備を進め平成12年に完成。全域で85ヘクタールあり、遊歩道や遊具、四阿などが整備される。
308	番所のオンコ	膳棚	いのち	植物	○							直径約2メートルのオンコ（イチイ）。その周りに藪や橋、松前藩指定の宿もあったといわれている。旧JR江差線の沿線近く。

●マイ文化財一覧（海方面・大崎、原歌）

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別					指定等	備考	
					大人	大学	高校	中学	小学			幼児
309	原歌遺跡	原歌	歴史	遺跡	○							遺物包含地、縄文（前・中・後期）、続縄文、石斧、石匙、石鏃若干。
310	文珠海岸の地形	原歌	自然	海浜	○				○			海蝕・波蝕地形、神の道、文殊岩など。
311	海成段丘	原歌	自然	海浜		○						形成時期が異なる（約50万年前～約12万年前）段丘面が、ほぼ連続して分布している。
312	道の駅もんじゅから見える景色	原歌	景観	景観	○				○	○		北海道内の道の駅で、1～2を争う絶景がみられる。
313	風の王	原歌	景観	場所	○							国松明日香作のモニュメントで平成4年に日本海情報交流館文珠が開設した時に設置される。
314	風の門	原歌	景観	場所	○							国松明日香作のモニュメントで平成4年に日本海情報交流館文珠が開設した時に設置される。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
315	風の羅針盤	原歌	景観	場所	○					平成7年に設置され、風速と風向が表示される。
316	大潤ノ崎のエゾカシラ群生地	原歌	いのち	植物	○					文珠岩を見渡す一帯で確認できる。
317	大崎稲荷神社	大崎	歴史	有形	○					天保2年創立で昭和44年までは上ノ國八幡宮の末社。祭神は倉稲魂命。
318	米軍対潜レーダー基地跡	大崎	歴史	遺跡	○					戦後に米軍が対潜、レーダー基地として昭和31年ころまで駐留する。その後、駐留軍兵舎の一部が大崎小学校の校舎となる。
319	大崎小学校校跡	大崎	歴史	遺跡	○					勝山尋常小学校の洲根子分教所として明治43年に開設され、平成17年に廃校となる。校舎は元の米駐留施設で、平成21年に取り壊された。
320	大崎A遺跡	大崎	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文(後期)、石斧、石匙、石鏃
321	赤石遺跡	大崎	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文(晩期)、縄文土器(亀ヶ岡、大筒式土器)、石鏃、石斧、石匙、石錘
322	大崎B遺跡	大崎	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文(前期)、続縄文
323	大崎C遺跡	大崎	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文(前期・後期)、縄文土器(椴川式)、土器片前期3点、後期4点
324	八幡牧場の短角牛	大崎	いのち	動物	○		○			昭和28年に短角牛30頭導入され始まる。八幡牧場で肥育されたのち出荷される。
325	洲根子岬	大崎	自然	海浜	○					洲根子は、大崎の古い名。この地には狐狸が多く棲み、村人が欺かれている。
326	八幡牧場から見る景色	大崎	景観	景観	○			○		八幡牧野からは江差～石崎方面の海岸線を見渡すことができる。
327	上ノ国漁港大崎分港	大崎	景観	場所	○					漁港新設当時は地元負担が多く、集落の共有財産や漁業権などを売するなどしてこれに充当した逸話がある。
328	洲根子岬のハマナス群生地	大崎	いのち	植物	○					

●マイ文化財一覧(海方面・木ノ子、大安在)

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
329	木ノ子・稲荷神社	木ノ子	歴史	有形	○					弘治元(1555)年の創祀で神祇官頭吉田家の神号納む。祭神は、倉稲魂命と言代主命。
330	円空作 観音座像	木ノ子	歴史	有形	○		○		町有形	稲荷社にあったが明治4年の神仏分離の際、光明寺に安置される。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
331	光明寺	木ノ子	歴史	有形	○					宝暦10(1760)年、上國寺十六代弁的和尚の創立で、上國寺の末寺で光明庵と称した。現在の本堂は昭和33年建築。浄土宗。
332	赤門の墓	木ノ子	歴史	有形	○				町有形	天明年間、木ノ子の知行主であった蛸崎将監広当の墓。ただし、将監の墓は松前法源寺にもあるため、木ノ子の墓は誰が建てたのかは不明。
333	太平山鉄塔建設工事事故の供養塔	木ノ子	歴史	有形	○					建設工事での事故の犠牲者を弔うため建立され、後に光明寺の墓所に移築された。
334	木ノ子遺跡	木ノ子	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文(後・晩期)
335	大安在遺跡	木ノ子	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文(後・晩期)
336	滝ノ沢遺跡	木ノ子	歴史	遺跡	○					遺物包含地
337	クジラ餅	木ノ子	食文化	伝統	○					木ノ子地区から町内に広がったとの説がある。
338	タンコウの沢	木ノ子	自然	川	○					
339	滝沢小学校から見える海	木ノ子	景観	景観				○		
340	滝沢小学校前の夕日	木ノ子	景観	景観			○	○		
341	大安在の夕日	木ノ子	景観	景観				○		
342	古館スタンドからみる夕日	木ノ子	景観	景観	○					
343	木ノ子墓地と火葬場跡	木ノ子	景観	場所	○					
344	木ノ子、小安在の桜	木ノ子	いのち	植物	○					町指定名木
345	木ノ子稲荷神社例祭	木ノ子	まつり	伝統	○					
346	河北小学校大安在分校跡	大安在	歴史	遺跡	○					昭和35年ころに入植し、昭和39年から41年に開設されていた。
347	北海道水稲発祥の地	大安在	歴史	遺跡	○					大安在川流域で、元禄年間に水田耕作が始められたと言われる。
348	福山街道(藩主祖廟詣での道)	大安在	歴史	遺跡	○		○		歴史の道百選	勝山館に至る旧道で、勝山館が廃絶された後も松前藩主や家臣が参道、代参道として利用された。
349	昇平丸	大安在	歴史	遺跡	○		○			安政元(1854)年に薩摩藩が建造した洋式軍艦で、明治3年に猫の沢沖で座礁し破船する。
350	大安在B遺跡	大安在	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文(中・後期)
351	住川遺跡	大安在	歴史	遺跡	○					遺物包含地
352	寅ノ沢遺跡	大安在	歴史	遺跡	○					遺物包含地
353	十兵衛沢D遺跡	大安在	歴史	遺跡	○					遺物包含地

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
354	十兵衛石の話	大安在	歴史	伝説				○		昔中須田に住む十兵衛という強い相撲取りがいた。木ノ子稲荷神社の奉納相撲に参加した帰り道だったが、途中の大安在の岩の傍らで変わり果てた姿で見つかった。
355	大安在浜の冬の荒波	大安在	自然	海浜					○	夏場は小石で覆われているが、冬場の時化で岩場が露出する。
356	寅の沢と猫の沢	大安在	自然	川	○					寅の沢の由来は、巡検使一行と出くわした罷が、一目散に逃げた様子が寅のように速かったことによる。また、猫の沢は洲根子に住む人が捨てた猫が、化け猫になって現れるという噂による。
357	大安在浜のエゾカンゾウ	大安在	いのち	植物	○					
358	大安在浜のエゾニユウ	大安在	いのち	植物	○					別名におうで群生している。塩漬けにして、クジラ汁の具材として利用される地域もある。
359	大安在浜のノハナシヨウブ	大安在	いのち	植物	○					

●マイ文化財一覧（海方面・汐吹、扇石、滝沢）

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
360	照光寺	汐吹	歴史	有形	○					天正10年に浄賢和尚の創立で、もとは、江差町の阿弥陀寺の末寺で阿弥陀堂といった。浄土宗正行寺派。
361	ワシリ遺跡	汐吹	歴史	遺跡	○	○				擦文時代の環壕集落。
362	山小崎遺跡	汐吹	歴史	遺跡	○					遺物包含地、石鏃
363	汐吹遺跡	汐吹	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文、擦文、土器、石鏃
364	羽根差遺跡	汐吹	歴史	遺跡	○					遺物包含地
365	タテノ遺跡	汐吹	歴史	遺跡	○					遺物包含地
366	サメ坂	汐吹	歴史	伝説	○					寛永の津波の際に、ワシリ遺跡の近くまで津波が押し寄せ、大量のサメが寄せられたという。
367	つぼっこ汁	汐吹	食文化	伝統	○					金時豆やニンジン、豆腐、ちくわなどをしょう油仕立ての汁で煮てある。主に小正月などに作られる。
368	ホッケ飯寿司	汐吹	食文化	伝統	○					晩秋から初冬に作られる郷土食で米麴を使い漬け込む。鮭やイカ、ハタハタなどでも作る。
369	ホッケのすり身	汐吹	食文化	伝統	○					冬から春にかけて水揚げされるホッケを使用される
370	海産物の加工風景	汐吹	食文化	伝統	○					昔よりイカやホッケ、スケトウダラなど様々な水産物の加工風景が見られた。
371	サメぬた	汐吹	食文化	伝統	○					サメの調理法（食べ方）

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
372	サメみぞ漬け	汐吹	食文化	伝統	○					サメの調理法（食べ方）
373	根ボツケ	汐吹	食文化	現代	○					本来回遊魚であるホッケが、近海の岩棚に根づき大きく育ち脂のりのよいもの。
374	大沢川	汐吹	自然	川	○					
375	汐吹漁港の汐吹岩のレリーフ	汐吹	景観	景観	○					地名の由来ともなった岩が漁港の拡張工事のため壊されたが、レリーフとして残した。
376	汐吹漁港の水揚げ風景	汐吹	景観	景観	○					町内で最も大きい港で、ひやま漁協の支所もある。
377	汐吹漁港の夕日	汐吹	景観	景観	○					
378	ウニ・アワビ漁	汐吹	景観	景観	○					磯舟を出して、漁を行う。
379	汐吹緑地公園から見る夕日	汐吹	景観	景観	○					
380	イカつけ（イカ釣り船）の出航（出漁）風景	汐吹	景観	景観	○					光に集まるイカの特徴を利用して夜に漁を行うため、夕方に 出漁する。マイカ漁の漁期は、毎年6月から1月。
381	汐吹漁港	汐吹	景観	場所				○		昭和25年に漁港として工事が着手され、数度の災害に見舞われ れたが、昭和32年に完成。数度の拡張工事を経て現在の形と なる。
382	標語「まあいかがべ これがいいが べが 事故のもと」	汐吹	景観	場所	○					汐吹港の防波堤に書かれている標語。
383	市山熊雄	汐吹	いのち	人	○					昔の漁法を知る人。
384	ゴジラエビ	汐吹	いのち	動物	○					正式にはイバラモエビで、汐吹漁港で水揚げされる。
385	恵比須山	汐吹	まつり	伝統	○					山車。恵比須様の人形を飾り巡行する。
386	汐吹愛宕神社例祭	汐吹	まつり	伝統	○					
387	てっくい祭り	汐吹	まつり	現代				○		てっくいとヒラメのことで、てっくいの販売機会を増やす ため、平成27年から行われている。
388	愛宕神社（愛宕山）	扇石	歴史	有形	○					天正10（1582）年創祀。祭神は火産霊命、倉稻魂命、大山祇 命。
389	瀧澤神社	扇石	歴史	有形	○					寛永11（1634）年の創立。祭神、言代主命と倉稻魂命。
390	扇石遺跡	扇石	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文、縄文土器（円筒式上層）
391	扇石	扇石	自然	海浜				○		扇の形をした岩で地名の由来に。激しい波風のため損傷し形 が崩れている。
392	扇石近くの滝	扇石	自然	川	○					
393	滝の沢の滝	扇石	自然	川	○					
394	海で遊ぶ子ども们的風景	扇石	景観	場所	○					

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
395	扇石神社のケヤキ	扇石	いのち	植物	○					町指定名木
396	滝沢小学校	滝沢	歴史	有形	○					安在小学校と汐吹小学校（共に明治15年開校）が、大正3年に統合して開校した。現校舎は平成10年築。
397	旧滝沢中学校跡	滝沢	歴史	遺跡	○					昭和22年に開校し、平成8年に閉校する。校舎は昭和26年竣工し、平成13年に解体される。
398	箱岩	滝沢	自然	海浜	○					箱型の岩で、地元で呼ばれている。

●マイ文化財一覧（海方面・石崎、早川）

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
399	石崎八幡神社	石崎	歴史	有形	○					創立年代は明確ではないが、寛文年代（1661～1673）には存在していた。元禄17（1704）年の銘がある鰐口や元文4（1739）年～享和元（1801）年の棟札が残されている。
400	円空作 観音座像	石崎	歴史	有形	○		○		町有形	石崎八幡神社に安置され、明治の神仏分離の際、烏帽子・直垂をつけ、棄却の難を逃れる。
401	西迎寺	石崎	歴史	有形	○					慶長14（1609）年創立で、江差町の阿弥陀寺の末寺で、明光庵とあった。浄土宗正行寺派。
402	斉藤流松前家三代の位牌	石崎	歴史	有形	○					緑岸院春水芳柳居士、惣法院殿一音祖弦庵主、広純院門殿普門月心居士。木工広綏、内膳広政、内蔵広純の位牌と言われる。
403	法香寺	石崎	歴史	有形	○					福山専念寺十世了幻の創立で、安永元年に堂宇が落成。天明元年に焼失し再建。明治5年に公許をえて法香寺と称した。
404	松前平角（ばっかく）の墓	石崎	歴史	有形	○				町有形	松前平角源則忠の墓。松前7代公広の幸広を祖とする斉藤流松前家の出。没年は文政2（1819）年2月13日。
405	早川小学校	石崎	歴史	有形	○					明治15年、坪田権之丞宅を仮校舎として開校し、平成27年閉校。現存する建物は平成14年に早川中学校跡地に建てられた。
406	大滝の古戦場	石崎	歴史	遺跡	○					戊辰戦争の古戦場。松前城を落とされた松前藩が旧幕府軍を迎え撃つために陣を構えたが、背後から奇襲を受け敗走した。
407	石崎漁港トンネル	石崎	歴史	遺跡	○				登録有	昭和9年に比石館跡の下部に長さ45m、幅9mの半円形のトンネルが設けられ、昭和58年まで利用された。
408	早川中学校跡	石崎	歴史	遺跡	○					昭和22年に早川小学校内で開校し、昭和26年に校舎が竣工。平成13年に廃校となった。後に早川小学校が建てられた。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
409	中外鉱山跡	石崎	歴史	遺跡	○	○				昭和14年に八田満次郎が創業し、昭和18年に中外鉱業(株)が買収。快適な環境で生産され、厚生施設も充実するも昭和61年に休山。
410	比石館跡	石崎	歴史	遺跡	○	○				嘉吉元(1441)年厚谷右近将監重政の築いたもので、長祿元(1457)年のコシヤマインの戦いで陥落。
411	十三曲	石崎	歴史	遺跡	○					石崎小砂子間の峠。昭和55年に現在の国道が開通するまで交通の要所だった。
412	ラスタツパ遺跡	石崎	歴史	遺跡	○					遺物包含地、続縄文、縄文土器(恵山式)、石鏃、石匙、石斧
413	金堀沢遺跡	石崎	歴史	遺跡	○					
414	メノコシ野遺跡	石崎	歴史	遺跡	○					遺物包含地
415	境川遺跡	石崎	歴史	遺跡	○					遺物包含地
416	旧早川小学校跡	早川	歴史	遺跡	○					明治18年の開校から平成14年に早川中学校校跡地へ移転するまで利用される。
417	早川の主	石崎	歴史	伝説	○					コシヤマインの戦いで討死にした厚谷右近将監重政は比石館下の急流に身を沈め、大鯰に化身し、早川の主になったと言われる。
418	大滝橋付近の海岸線	石崎	自然	海浜	○					
419	メノコシ岬	石崎	自然	海浜	○					
420	ラスタツパ岬	石崎	自然	海浜	○	○				
421	大滝山、初神山、滝ノ間山	石崎	自然	山	○					
422	石崎川	石崎	自然	川	○					
423	黄金の滝	石崎	自然	川	○					石崎川上流にあり、運んでいた金が落ちたたため名付けられた。
424	長内川	石崎	自然	川	○					
425	赤井川	石崎	自然	川	○					石崎川支流
426	石崎川の滝	石崎	自然	川	○					
427	石崎右股川の上流の滝	石崎	自然	川	○					
428	桂沼	石崎	自然	川	○		○			
429	右股川	石崎	自然	川	○					
430	大滝	石崎	自然	川	○					石崎小砂子間にある滝。国道からの確認は難しい。
431	小滝	石崎	自然	川	○					石崎小砂子間にある滝。国道からの確認は難しい。
432	石崎漁港と夕日	石崎	景観	景観	○					
433	初神大橋付近より夕日	石崎	景観	景観	○					

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
434	比石館跡より望む石崎漁港及び市街地眺望	石崎	景観	景観	○					
435	比石館跡より望むラスタスツベ岬方面	石崎	景観	景観	○					
436	石崎漁港	石崎	景観	場所	○	○				昭和9年に完成。昭和58年まではトンネルを通り出漁していた。現在は、石崎川沿いの水路を利用している。
437	石崎八幡神社の黒松、ケヤキ	石崎	いのち	植物	○					町指定名木
438	法香寺の黒松、榎、シンパク	石崎	いのち	植物	○					町指定名木
439	石崎奴	石崎	まつり	伝統			○	○		道中振りで長柄の熊毛の檜を振り立てて、上の句と下の句を掛け合いながら行進する。
440	若葉小中学校跡	早川	歴史	遺跡	○					昭和15年に早川小学校の特別教授場として開設され、昭和18年に独立開校。中外鉾山の盛衰とともにし、昭和61年に閉校。

●マイ文化財一覧（海方面・小砂子）

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
441	日方泊灯台	小砂子	歴史	有形	○					初点灯が昭和46年11月の灯台で海の交通の安全を守る。
442	小砂子小中学校	小砂子	歴史	有形	○					明治17年に開校。中学は昭和63年に早川中学校と統合し、小砂子学校は平成25年に休校し、平成27年閉校。
443	小砂子の地蔵講	小砂子	歴史	無形	○					毎年10月23日に行われており、小砂子沖の難破船から流出し流れ着いた地蔵を祀っている。
444	小砂子遺跡	小砂子	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（早期・後期）
445	相泊2遺跡	小砂子	歴史	遺跡	○					遺物包含地、縄文（後期）、土器20点
446	相泊墓地遺跡	小砂子	歴史	遺跡	○					遺物包含地
447	ちいさごが島（小人伝説）	小砂子	歴史	伝説	○					小砂子の地名の由来となった伝説。菅江真澄が記した旅行記「蝦夷地辞弁」によると、相当昔に磯山の土を採りに身丈三尺くらいの男がやってくるのを見たといわれる。
448	小砂子のけんちん汁	小砂子	食文化	伝統	○					ゼンマイや切り干し大根、大量のヒジキなどを油で炒めてからしょう油で煮る小砂子地区の郷土料理。地蔵講や小正月などに作られる。
449	小砂子のホッケ干し	小砂子	食文化	伝統	○					港で水揚げしたホッケを寒風にさらし十分に水気が抜けるまで干してある。
450	サメ飯寿司	小砂子	食文化	伝統	○					サメの調理法（食べ方）一つ。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
451	小砂子の砂浜	小砂子	自然	海浜	○					
452	日方泊岬	小砂子	自然	海浜	○					小砂子地区内の岬で灯台も設置されている。
453	トト岩	小砂子	自然	海浜	○					トドが群れている岩
454	相泊川の滝	小砂子	自然	川	○					
455	相泊川の小砂子2号橋付近からの景色	小砂子	景観	景観	○					
456	小砂子漁港のホッケ水揚げ風景	小砂子	景観	景観	○					秋から春にかけてみる事ができる。
457	小砂子バス停付近から見る海	小砂子	景観	景観				○		渡島大島・小島方面
458	ドアサ橋付近パーキングから見た日方泊岬	小砂子	景観	景観	○					
459	日方泊岬から見た松前方面の景色	小砂子	景観	景観	○					
460	小砂子トンネル付近から見た風景	小砂子	景観	景観	○					トンネルの出口付近（松前・石崎両方向）
461	小砂子漁港	小砂子	景観	場所	○					昭和57年に漁港関連道が作られてから、漁港の整備が進む。

●マイ文化財一覧（複数の地区にまたがるもの、地区分類できないもの）

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
462	北前船		歴史	有形			○			江戸時代の交易船。西廻り（日本海）と東廻り（太平洋）のルートがあるが、西廻りが主であった。
463	夷狄商拍往還之法度		歴史	有形	○					16世紀の渡島半島において取り決められた講和で、船の往来などを定めたもの。この際に知内から天河までを和入地とする。
464	上高カルタ		歴史	有形			○			マイ文化財調査を兼ねてカルタづくりを取り組む。
465	ガイド協会カルタ		歴史	有形	○					
466	アイヌと和人の歴史		歴史	無形			○	○	○	勝山館跡周辺からアイヌ墓やイクパスイなどが出土していることから、アイヌと和人が交流していたと考えられる。
467	クサヤキ（通夜葬式前に遺体を荼毘にふす）		歴史	無形	○					通夜・告別式前に遺体を荼毘にふす道南地方独特の風習で昭和40年代から行われるようになる。
468	地名の唄		歴史	無形	○					上ノ国から寅ノ沢までの地名を折り込んだ唄で、松前じよんがら節として、太鼓やはやし興に乗って楽しんでたとも言われる。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
469	松迎え		歴史	無形	○					
470	山子（ヤマゴ）の仕事		歴史	無形	○					立木の枝払いや伐採、搬出など林業に携わる人を山子と呼ぶ。
471	アイヌ語地名		歴史	無形	○					アイヌ語地名が多く残る。
472	旧江差線廃線跡と各駅		歴史	遺跡	○					昭和10年に湯ノ岱まで、昭和11年に全線開通。町内には上ノ国駅、桂岡駅、湯ノ岱駅、中須田駅、宮越駅、神明駅があり、平成26年に廃止。
473	コシヤマインの戦い		歴史	遺跡		○	○	○		小刀の出来栄をめぐり和人がアイヌの少年を刺殺したこと原因で始まった戦い。
474	縄文時代～続縄文時代の遺跡		歴史	遺跡	○					遺構や土器、石器などが確認されている。
475	門昌庵		歴史	伝説	○					松前伝説の怪談で十世矩広の話。柏巖和尚の首を運ぶときに、天の川を渡ることができず一泊したら、江差の円通寺本堂を焼いた。
476	投槍の名人		歴史	伝説	○					早瀬に住んでいた久末桃太郎や石崎生まれの大沢多治郎兵衛が投げやりの名人として名が挙がる。
477	ばけものの臼		歴史	伝説	○					木の節が目・鼻・口・耳のように見える臼の話。
478	三升飯		歴史	伝説	○					神明の沢に、佐々卯之助という男がおり、一度に三升を炊いて食べると、3日間は何も食べずにいても飢えた感じがしなかった。槍でついた熊は26頭に達する。
479	小豆と甘納豆入り赤飯		食文化	伝統	○					北海道独特の食文化で、上ノ国町内でも小豆を使う家と甘納豆を使う家とで分れる。
480	上ノ国の山菜を使ったおでん		食文化	伝統				○		とても美味しい具があつてあつたかいから。一般的に具材のほかにゼンマイやタケノコ、フキ、ワラビが入る。
481	かたこ餅		食文化	伝統	○		○	○		うるち米ともち米を混ぜて粉にして、砂糖や黒砂糖を入れてこねて、木型に抜いて、蒸した郷土料理。彼岸などに作られる。
482	上ノ国の郷土料理		食文化	伝統	○					親の代から伝わっており、知って欲しい。古くから伝わるのは、クジラ汁、つぼっこ汁など。
483	クジラ汁		食文化	伝統	○	○	○	○		正月などハレの日に食べられる郷土料理。フキを使う地域とニオウを使う地域がある。上ノ国の沖でもくじらは捕れる。
484	こうれん		食文化	伝統	○	○	○	○		うるち米ともち米を蒸してから砂糖などつき伸ばした、天日干しする。長期保存が可能で、焼いたり、油で揚げて食べられる。
485	ゴッコ汁		食文化	伝統				○		冬場に食べられる郷土料理。ごっこは12月～2月上旬に水揚げされる。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
486	山菜採り		食文化	伝統	○					町内の9割が山林を占められており、四季折々の山菜を楽しむことができる。
487	野生動物の調理（ジビエ料理）		食文化	伝統	○					昔より鹿や熊を仕留めると鍋料理などにして食べた。
488	てっくい天井		食文化	伝統		○	○			ひらめを使った天井。
489	べこもち		食文化	伝統				○		うるち米ともち米を混ぜて粉にして、砂糖（黒砂糖）を入れてこねて、型を抜いて、蒸した郷土料理。
490	ホッケのすり身汁		食文化	伝統			○	○		ホッケをつかった料理で、漁業を営む家で多く作り食べられる。
491	イカ塩辛		食文化	伝統	○					スルメイカ
492	ニンジンの白和え		食文化	伝統	○					甲事に振る舞われる伝統食だが、現在ではあまり作られない。
493	豆漬		食文化	伝統	○					茹でた枝豆を1ヶ月から2ヶ月漬け込んだもので、この地域周辺でのみ作られる。
494	味噌		食文化	伝統	○					主に豆味噌が食べられており、地区によっては一から手作りする。
495	ヒラメの切り込み		食文化	伝統	○					数日間真水にさらしたヒラメの身を塩や麴、荒南蛮などで3週間程度つけ込んだもの。
496	クジラ素麺		食文化	伝統	○					ハレの日に振る舞われ、出汁に塩くじらが使われている。
497	ニンジン漬		食文化	伝統	○					身欠きニンジンを使った漬物で、大根や人参、白菜などとともに麴と塩で漬け込んだもの。
498	ホッケの煮付け		食文化	伝統	○					しょう油やシヨウガなどを入れて煮付けられている。普段から食べられている。
499	海の風		自然	海浜				○		
500	寛保津波の痕跡	石崎～原歌	自然	海浜	○					寛保元（1741）年に渡島大島の噴火が原因による津波が発生し、石崎地区が壊滅するなど大きな被害を受けた。
501	ヤマセ		自然	山	○			○		春先に特に強く吹く東（山）風。
502	駒ヶ岳d火山灰（Ko-d）		自然	山	○					寛永17（1640）年に噴火した北海道駒ヶ岳の火山灰が上ノ国も降り注いだ。
503	温泉成分		自然	川				○		湯ノ岱温泉は、ナトリウム・カルシウム-塩化物炭酸水素塩泉（中性低張性温泉）、花沢温泉は、ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物泉（弱アルカリ性低張性高温泉）
504	海（日本海）・山（夷王山）・川（天の川）		自然	川	○			○		当たり前に見ている風景だが実は凄い。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
505	シヨガキ	内陸部	景観	景観	○					昔、冬場の北西の風をよけるために各家などが覆われている。
506	漁火		景観	景観		○		○		
507	カミゴンバス		景観	景観	○					JR江差線廃止に伴う代替バスとして、平成26年4月から運行されている。車体にはカミゴンのほか江差町と木古内町のゆるキャラが描かれている。
508	旧江差線の駅裏風景		景観	景観				○		天気の良い日はキラキラ光っているように見える。駅裏とは上ノ国駅の駅舎と反対側にある住宅街を指す場合が多い。
509	水田に写る空		景観	景観	○					水を張った水田に写る青空や夕日がとてもきれいだ。
510	道道江差木古内線		景観	景観	○					江差～木古内間を結ぶ道路で昭和29年に道道認定される。実延長41.9 ^{キロ} メートル。
511	トッペ沢橋下		景観	景観	○					
512	波の花		景観	景観				○		海中にただよう植物性プランクトンに含まれる粘液が海の波にもまれて、石鹸状の泡となる。汚れていると発生しない。
513	日本海に沈む夕日		景観	景観	○		○	○		町内の海岸線からは、様々な夕日を見ることができ。
514	晴れた風の強い日の夕日		景観	景観			○			
515	前浜のきれいな海		景観	景観				○		
516	山道		景観	景観	○					ふらっと散歩できる。
517	正月しめ飾り		景観	景観	○					以前は手作りしていたが、近年は作り手が減っている。
518	イカ水揚げ		景観	景観	○					昔からよく採れており、大量に獲れた時は地域総出でイカを開いて、干していた。
519	プール		景観	場所				○		上ノ国と河北の2箇所ある町営のプール。
520	保育園		景観	場所					○	上ノ国と河北にある町立保育所。以前は湯ノ岱、滝沢、石崎、中外にも保育所があった。
521	ポケモンGO対応マップ		景観	場所				○		ゲームアプリであるポケモンGOのポケストップやジムの位置を地図にまとめたもの。
522	はさがけ		景観	景観	○					米などの穀物や野菜を刈り取った後に束ねて天日干しさせるよう、木材などに柱を作り横木を何本か掛けて作ったもの。
523	上ノ国の元気な浜のばっちゃん		いのち	人				○		上ノ国のばっちゃん、かあさんたちは元気。かかあ天下である家が多い。
524	木村隆吉		いのち	人	○					大正末期から昭和初頭にかけて機械漁船を導入した先駆者。漁船を次々と新造したり、漁法を改めたりし漁業の発展に貢献した。

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
525	新村久兵衛		いのち	人			○	○		文化13 (1816) 年江差町で生まれ、安政2 (1855) 年の北村地区を皮切りに下中須田地区など各地で新田開発を行う。
526	武田信廣		いのち	人			○	○	○	永享3 (1431) 年生まれの若狭国出身。コシヤマインの戦いで活躍し、その後、勝山館を築く。松前藩繁栄の礎を築く。
527	タリコナ夫婦		いのち	人	○					天文5 (1536) 年に勝山館に攻め入るも、和睦を装った宴席で夫婦ともに討たれる。
528	南条広継		いのち	人				○		享禄2 (1529年) 年生まれ。勝山館の城代を務めるも謀反の疑いをかけられ無実を訴えながら自害する。
529	農家の人		いのち	人				○		とても働き者だから
530	松前慶広		いのち	人				○		天文17 (1548) 年生。松前藩初代藩主となる。
531	若い農業の担い手		いのち	人	○					彼らが頑張っていることをもっと知って欲しい。
532	菅江真澄		いのち	人	○					江戸時代後期の旅行家。『えみしのさえき』に上ノ国に関する記載をしている。
533	コシヤマイン		いのち	人	○					コシヤマインの戦いの戦いのアイヌ側指導者。道南の和人の館をつぎつぎと攻略するも、武田信広の反撃にあい七重浜で討たれた。
534	蠣崎光広		いのち	人	○					武田信広の嫡子で、永正11 (1514) 年に松前の大館に拠点を移している。
535	蠣崎季繁		いのち	人	○					花沢館城主。コシヤマインとの戦いの際には、武田信広とともに館を守り抜いた。
536	蠣崎高広		いのち	人	○					泊館城主で、蠣崎光広が松前の大館に拠点を移すと勝山館城代となる。
537	蠣崎基広		いのち	人	○					勝山館の城代を務めるも、謀反を企て討ち取られる。
538	蠣崎義広		いのち	人	○					第3代当主。交易で対立していたアイヌと抗争を繰り返す。
539	蠣崎季広		いのち	人	○					第4代当主で家督を継いだ際、蠣崎基広が謀反を企てる。アイヌと和睦を結んだり、安東氏から独立を果たす。
540	ジェロニモ・デ・アンジェリス		いのち	人	○					イタリアの宣教師。北海道に入った最初の神父で、残した地図に上陸地点の川を「テガ」「ツガ」と記した。
541	スポーツ少年団 (空手、剣道、石崎ヤンチャーズ)		いのち	人	○					全国大会に出場し実績を残す (空手、石崎ヤンチャーズ)。設立以来50年以上を経過した団体 (剣道)。
542	海の幸		いのち	動物		○	○	○		
543	イカ		いのち	動物				○		昔より獲れており、昭和40年代始め頃までは、屋外にイカを干す光景が見られた。
544	石鯛		いのち	動物	○					

No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
545	イタチ		いのち	動物				○		
546	イルカ		いのち	動物			○			沖合で確認することが出来、鯨の代わりに食べることもある。
547	馬		いのち	動物				○		おもにばん馬が町内で飼育されている。農業が機械化される前は、農作業で活躍した。
548	ウミタナゴ		いのち	動物	○					
549	エゾシカ		いのち	動物			○	○		一時期は確認されなかったが、現在は町内各所で確認される様になってきている。
550	カレイ		いのち	動物	○					3月から7月にかけて釣ることが出来る。但し、宗八カレイは11、12月。
551	キタキツネ		いのち	動物			○	○		町内一円で見る事ができる。
552	キツツキ		いのち	動物				○		
553	クロゾイ		いのち	動物	○					
554	サクラマス		いのち	動物		○				3月4月と7月に釣ることが出来る。
555	エゾサンショウウオ		いのち	動物					○	年に1度回帰するため、天の川伝説に合う。町の魚に推奨。毎年春に稚魚の放流を実施している。
556	スケトウダラ		いのち	動物	○					主力魚種で12月から2月かけ水揚げされる。
557	タヌキ		いのち	動物			○	○		
558	テン		いのち	動物			○	○		
559	トド		いのち	動物				○		
560	ニシン		いのち	動物			○	○		江戸時代には大量に採れ、大正2年までは群来が確認されていた。鯨にまつわる伝説もある。
561	白鳥		いのち	動物				○		冬期間、越冬のため訪れる。
562	ヒグマ		いのち	動物			○	○		町内の山林部で確認される。
563	ヒラメ (てっくい)		いのち	動物				○		てっくいと云われるのは手を食いちぎるほど歯が鋭いため。
564	ヘビ		いのち	動物				○		アオダイショウ、まむし、ツチグリなど町内一円で確認できる。
565	ホタル		いのち	動物				○		町内でも確認できる。また、以前は放流事業を実施していた。
566	ホッケ		いのち	動物				○		基本的には回遊魚だが、根付くものもいる。
567	エゾリス		いのち	動物				○		
568	ヒトビロ・キトビロ		いのち	植物	○					行者ニンニクとも言われ、早春の山裾で採ることが出来る。お浸しや炒め物などにして食べられる。

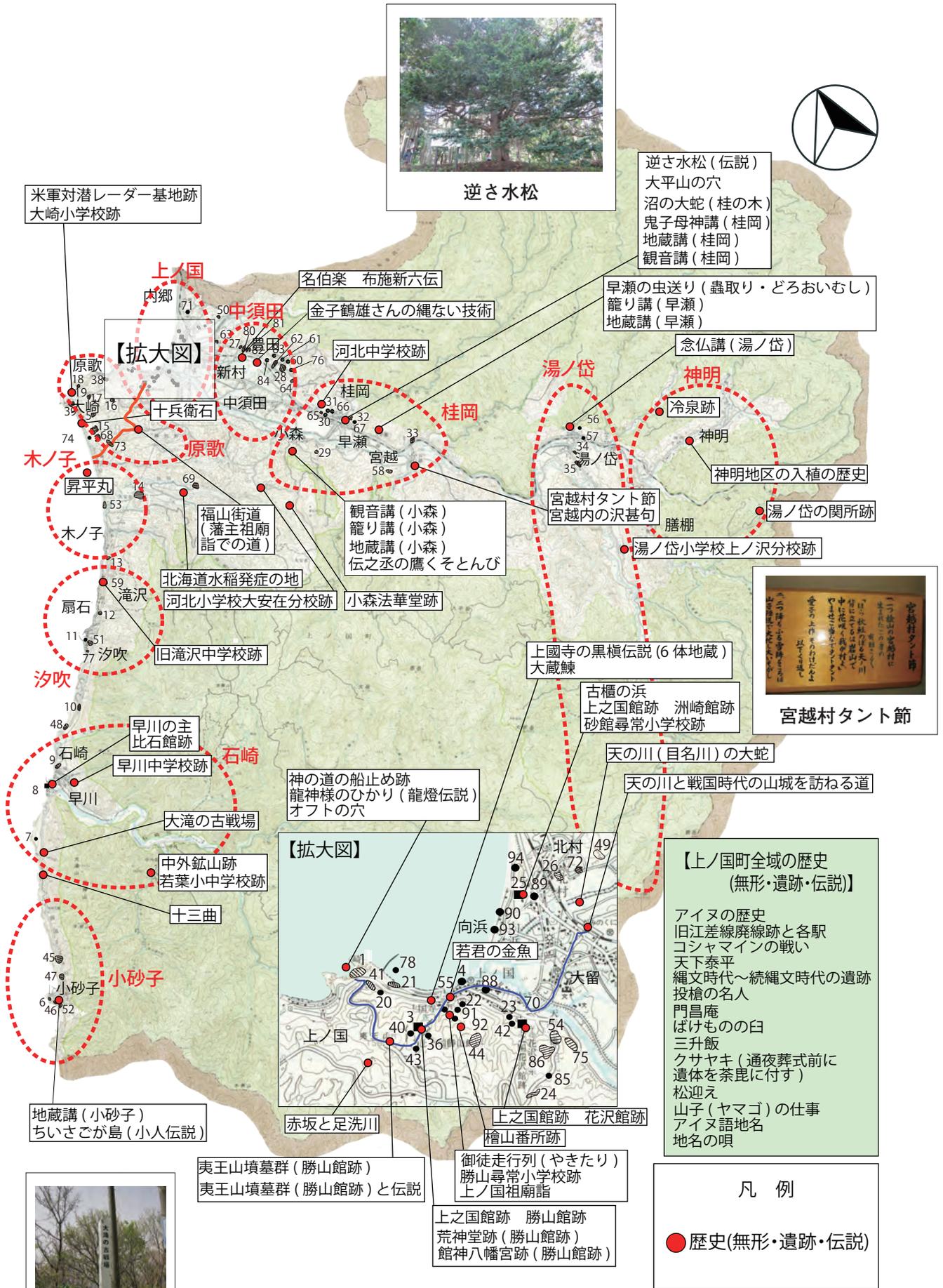
No.	マイ文化財名称	地区	大分類	小分類	世代別				指定等	備考
					大人	大学	高校	中学		
569	ホウレンソウ		いのち	植物						
570	カタクリ群生地		いのち	植物	○					小砂子地区などにカタクリの群生地が点在する。
571	山菜		いのち	植物	○		○			春から秋にかけて町内の山林で収穫することができる。
572	町内銘木100選		いのち	植物	○					昭和53年、上ノ国町開基790年を記念して制定される。
573	ニリンソウ群生地		いのち	植物	○					
574	根曲がり竹（チシマ笹）		いのち	植物	○					小森、宮越、湯ノ岱の山岳部に主に生育している。6月頃になると大勢の人が収穫に訪れる。
575	フクジュソウ群生地		いのち	植物	○					
576	果物		いのち	植物				○		上ノ国の果物はとても甘くて美味しいから。
577	森林		いのち	植物			○			上ノ国町の面積の9割が森林である。
578	野菜		いのち	植物			○			
579	ブロッコリー		いのち	植物	○					
580	立茎アスパラガス		いのち	植物	○					
581	秋祭り		まつり	伝統	○					人を受け入れるのが上手。
582	祭り		まつり	伝統	○			○		色々な人が協力しているところ。祭りをはしごする子供たちは、各地区で歓迎され、子供を大切にする人の暖かさを感じる。
583	祭りの山車		まつり	伝統			○			町の多くの地区には山車があり、人形を飾っている。近年は、運行されない地区が増えている。
584	天下泰平		歴史	伝説	○					天河太平とも称し、太平山が鳴動し、天の川の河口が塞がること、天下によくない事が起こる知らせといわれている。
585	カミゴン		まつり	現代	○		○	○		「龍燈伝説」をモチーフにしたえぞ地の火まつりゆるキャラで、平成23年に誕生した。
586	遊び場が多い		印象					○		
587	暖かい気候		印象					○		北海道の中でも暖かい。
588	イベントが多い		印象				○			
589	海や川がきれい		印象				○			
590	空気が良い、美味しい		印象				○			
591	健康的		印象				○			
592	子育てしやすいまち		印象				○	○		保育料・給食費・医療費が無料で、自然が多く災害が少ない。
593	四季折々にお金がかからない楽しみがある		印象				○			クワガタ、セミ取りやクリ拾いなど。

(2) 上ノ国町らしいマイ文化財類型の設定

マイ文化財を整理する過程で、下表のとおり①歴史、②食文化、③自然、④景観、⑤いのち、⑥まつり、⑦印象の7つに大分類し、それぞれ幾つかの小分類を設けることとした。集計結果としては、数が多い順から①歴史、⑤いのち、④景観、③自然、②食文化、⑥まつり、⑦印象の順であった。

大分類	小分類	主なマイ文化財
① 歴史 (261点)	有形 (94点)	海成段丘、上ノ国観音堂、上ノ国八幡宮本殿、重要文化財 旧笹浪家住宅、清浄寺本堂、夷王山神社、勝山館跡ガイダンス施設
	無形 (24点)	観音講（桂岡、小森）、地蔵講（桂岡、小森、早瀬、小砂子）、宮越村タント節、宮越内の沢甚句、念仏講（湯ノ岱）、湯ノ岱地区の造材技術
	遺跡 (121点)	史跡上之国館跡、荒神堂跡、館神八幡宮跡、福山街道（藩主祖廟詣での道）、昇平丸、ワシリ遺跡、石崎漁港トンネル
	伝説 (22点)	神の道、上國寺の黒槇伝説（6体地蔵）、若君の金魚、龍燈伝説、赤坂と足洗川、大蔵鯨、古櫃の浜、名伯楽・布施新六伝、沼の大蛇（桂の木）、太平山の穴
② 食文化 (37点)	伝統 (33点)	湯ノ岱の煮しめ・ゼンマイの一本煮・ササダケ・アユ釣り、小砂子のけんちん汁・ホッケ干し、早瀬のぷるぷる、八幡牧場の短角牛、クジラ餅、つぼっこ汁、ホッケ飯寿司、ホッケのすり身、根ボッケ、かたこ餅、クジラ汁、こうれん、ゴッコ汁
	現代 (4点)	フルーツポーク、久末ハナエさんのキノコ栽培、アユ釣り、根ボッケ
③ 自然 (66点)	海浜 (25点)	海成段丘、大澗ノ崎、窓岩、文珠浜、大澗の浜、ハイアロクラスタイト（水中破碎岩）、ポットホール（甌穴）、枕状溶岩、向浜のけあらし、内郷浜、洲根子岬
	山 (10点)	夷王山、大千軒岳、上の沢林道 白水の沢橋付近の地層、セツ岳、セツ岳の大沼・小沼、ブラックシリカ、大滝山、初神山、滝ノ間山、ヤマセ
	川 (31点)	目名の沢、天の川、厚志内川、澄川、上ノ沢川、キタキの滝、タンコウの沢、寅の沢と猫の沢、石崎川、黄金の滝、長内川、赤井川、石崎川の滝
④ 景観 (86点)	景観 (55点)	宮越の田園風景、七つ岳頂上からの景色、神明から膳棚の紅葉、八幡牧場から見る景色、汐吹漁港の汐吹岩のレリーフ、イカ釣り船の出漁風景
	場所 (31点)	天の川の遊歩道、花沢公園、花沢温泉、天の川橋の12星座パネルと彗星像・羽衣像、中崎公園、体育館、上ノ国ダム（あすなる湖）、湯ノ岱温泉
⑤ いのち (99点)	人 (23点)	夷曾タナケシ、市山熊雄、木村隆吉、新村久兵衛、武田信廣、タリコナ夫婦、南条広継、農家の人、松前慶広、菅江真澄、コシャマイン、蠣崎光広
	動物 (28点)	ゴジラエビ（ガサエビ）、海の幸、イカ、イタチ、イルカ、馬、ウミタナゴ、エゾシカ、カレイ、キタキツネ、キツツキ、サクラマス、エゾサンショウウオ、スケトウダラ
	植物 (48点)	上ノ国八幡宮の黒松、花沢公園の八重桜、荒神堂のイチイ、サイカチの木、甚之丞杉、ヒバ自生林、イチゴ、ジャガイモ、キヌサヤエンドウ、寸止めの松
⑥ まつり (36点)	伝統 (31点)	上ノ国八幡宮渡御祭など各神社の例祭・渡御際、上ノ国八幡宮の神楽、上ノ国昔踊り、コシャマイン慰霊祭（カムイノミ）、大留鹿子舞、石崎奴、秋祭り、祭りの山車
	現代 (5点)	エゾ地の火祭り、産業まつり、食遊祭、てっくい祭り、カミゴン
⑦ 印象 (23点)	印象 (23点)	暖かい気候、イベントが多い、海や川がきれい、健康的、子育てしやすいまち、みんな優しい、元気なおばあちゃん、四季折々にお金がかからない楽しみがある、四季の色々な匂い

① -2 歴史 (その他)



② 食文化



くじら汁



ゼンマイの一本煮



つぼっこ汁



こうれん



かたご餅

【上ノ国町全域の食文化】
 かたご餅
 クジラ汁
 こうれん
 てっくい丼
 ホッケのつみれ汁
 上ノ国の山菜を使ったおでん
 野生動物の調理(ジビエ料理)
 小豆と甘納豆入り赤飯
 べこもち
 ごっこ汁
 山菜採り

凡 例
 ● 食文化



ホッケ干し

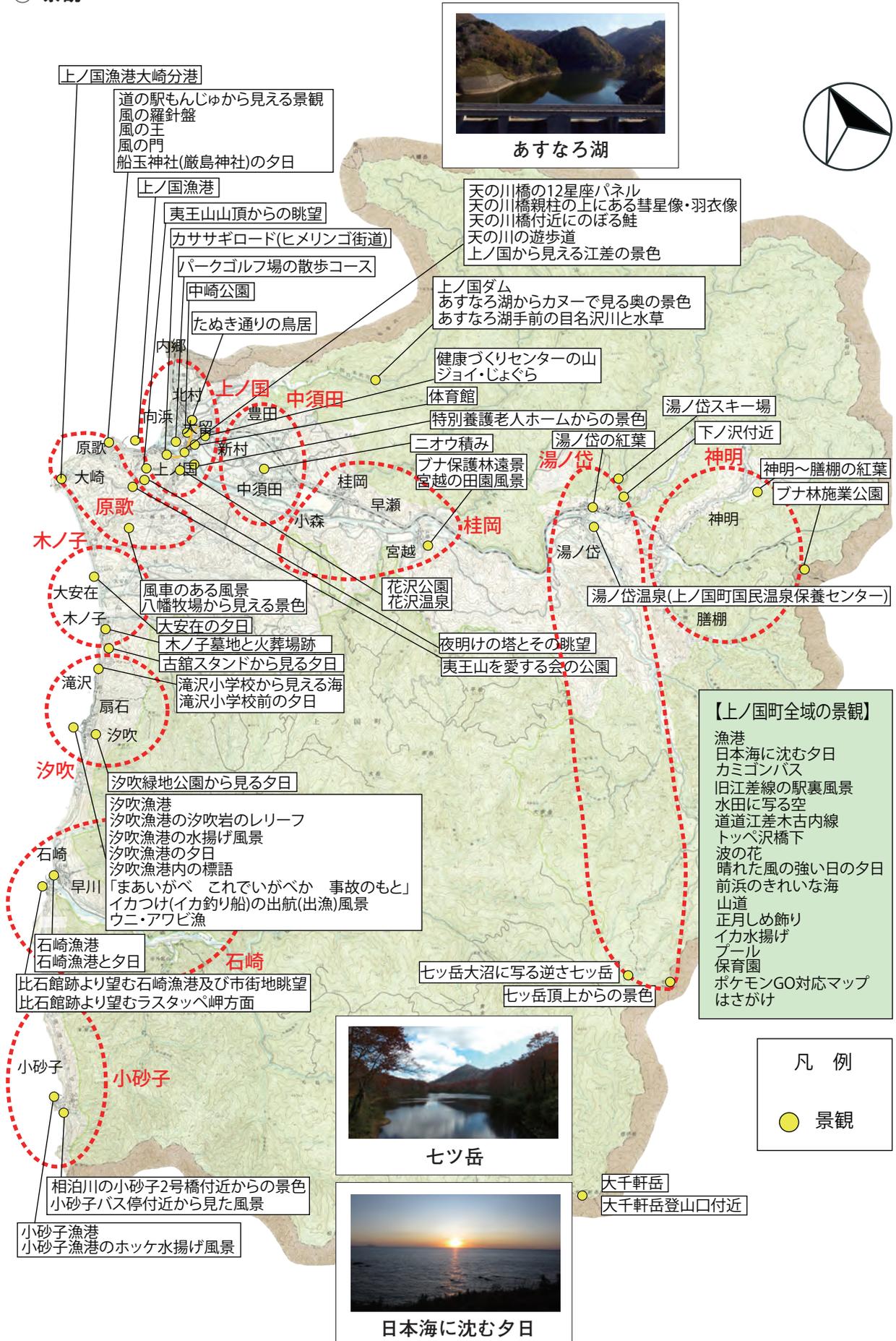


小砂子のけんちん汁

③ 自然



④ 景観



あすなる湖



- 【上ノ国町全域の景観】
- 漁港
 - 日本海に沈む夕日
 - カミゴンパス
 - 旧江差線の駅裏風景
 - 水田に写る空
 - 道道江差木古内線
 - トッベ沢橋下
 - 波の花
 - 晴れた風の強い日の夕日
 - 前浜のきれいな海
 - 山道
 - 正月しめ飾り
 - イカ水揚げ
 - プール
 - 保育園
 - ポケモンGO対応マップ
 - はさがけ

凡例

● 景観



七ツ岳



日本海に沈む夕日

上ノ国漁港大崎分港

道の駅もんじゅから見える景観
風の羅針盤
風の王
風の門
船玉神社(厳島神社)の夕日

天の川橋の12星座パネル
天の川橋親柱の上にある彗星像・羽衣像
天の川橋付近にのぼる鮭
天の川の遊歩道
上ノ国から見える江差の景色

上ノ国ダム
あすなる湖からカヌーで見る奥の景色
あすなる湖手前の目名沢川と水草

健康づくりセンターの山
ジョイ・じよぐら

体育館
特別養護老人ホームからの景色

二オウ積み
ブナ保護林遠景
宮越の田園風景

湯ノ岱スキー場

下ノ沢付近

神明～膳棚の紅葉
ブナ林施業公園

湯ノ岱温泉(上ノ国町国民温泉保養センター)
膳棚

夜明けの塔とその眺望
夷王山を愛する会の公園

風車のある風景
八幡牧場から見える景色

大安在の夕日
木ノ子墓地と火葬場跡

古館スタンドから見える夕日
滝沢小学校から見える海
滝沢小学校前の夕日

汐吹緑地公園から見る夕日

汐吹漁港
汐吹漁港の汐吹岩のレリーフ
汐吹漁港の水揚げ風景
汐吹漁港の夕日
汐吹漁港内の標語
「まあいがべ これでいがべか 事故のもと」
イカつけ(イカ釣り船)の出航(出漁)風景
ウニ・アワビ漁

石崎漁港
石崎漁港と夕日
比石館跡より望む石崎漁港及び市街地眺望
比石館跡より望むラスタッペ岬方面

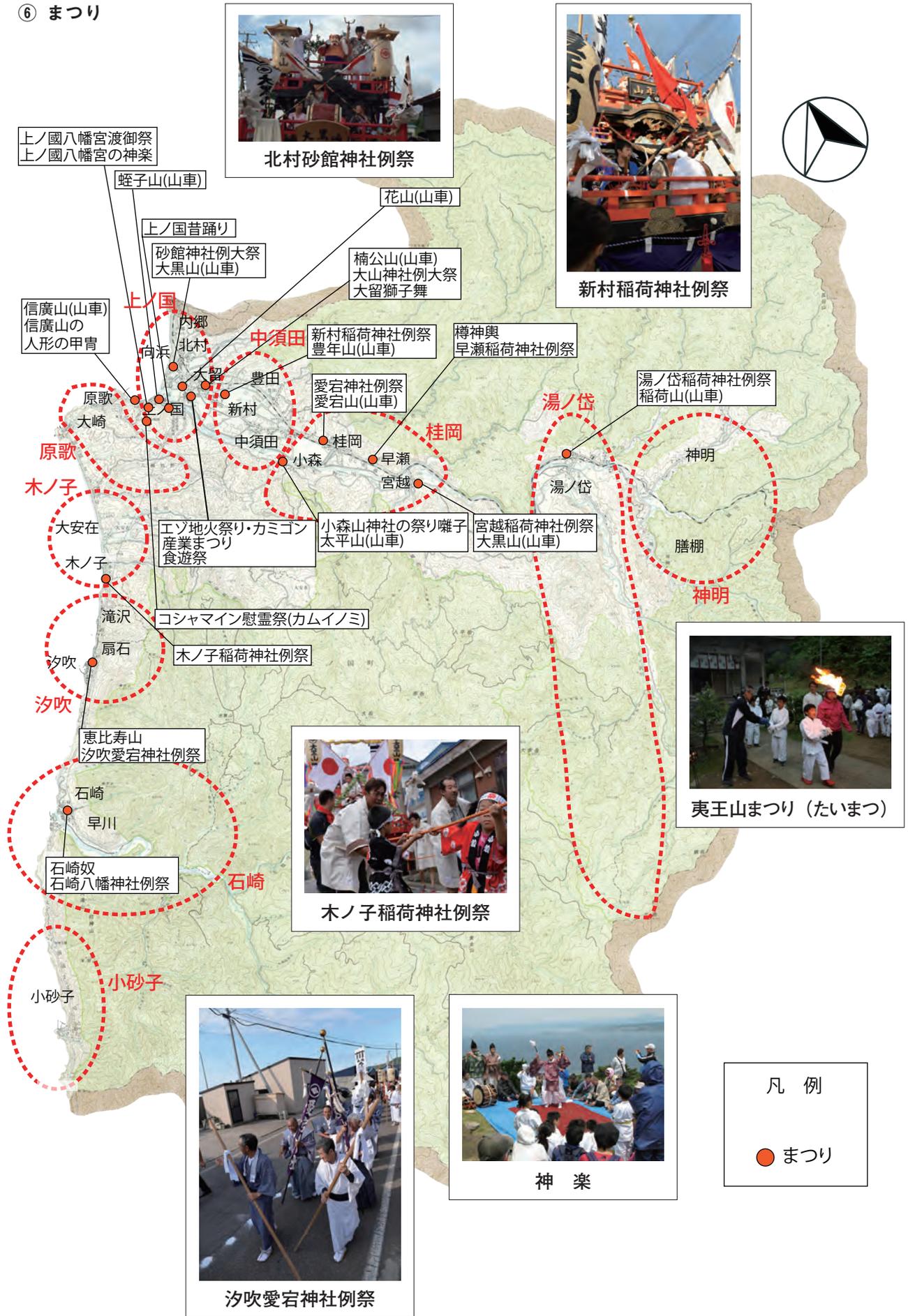
七ツ岳大沼に写る逆さ七ツ岳
七ツ岳頂上からの景色

小砂子
相泊川の小砂子2号橋付近からの景色
小砂子バス停付近から見た風景

小砂子漁港
小砂子漁港のホッケ水揚げ風景

大千軒岳
大千軒岳登山口付近

⑥ まつり



⑦ 印象



みんな優しい



自然が豊かで静か



釣り場が多い



食べ物が美味しい



子育てしやすいまち



イベントが多い



助け合い



健康的



遊び場が多い



自然が美しい



海や川がきれい



星がきれい



昔話・伝説が沢山ある



野鳥が多い



暖かい気候



四季の色々な匂い



特別な技を持った人がいること



土地が広い

V 関連文化財群の設定

1. 上ノ国町の歴史文化の特徴

本事業では、“上ノ国らしい文化財類型”としてマイ文化財を7つに大別して整理を行っている。今回調査によって集計したマイ文化財の傾向を読み取ると、上ノ国町の歴史文化は人類が足を踏み入れる前の地形の変遷や旧石器時代から現在に至るまで連綿とした人々の営みがあったことが判明した(表1)。そのため、特徴的なマイ文化財を時系列に整理して上ノ国町の歴史文化の特徴の検討を行った結果、上ノ国町の歴史文化の特徴として以下の3点にまとめることができた。

時代区分			各時代で特徴的なマイ文化財						
			歴史	食文化	自然	景観	いのち	まつり	印象
地質		ヤマセと地形の形成			ハイアロクラスタイト、窓岩、ポットホール、海成段丘、枕状溶岩、ヤマセ、天の川、セツ岳				
先史	旧石器 縄文 続縄文	人々のくらしの始まり	四十九里沢A遺跡、大潤遺跡、勝山館遺跡、大岱遺跡、上ノ国市街地遺跡		縄文海進、天の川の砂嘴・砂洲				
古代	擦文	律令国家との関わり	洲崎館跡(史跡)、ワシリ遺跡、上ノ国市街地遺跡、上ノ国遺跡、洲崎A遺跡		白頭山火山灰(B-Tm)				
中世	鎌倉 南北朝 室町 安土桃山	日本海北方交易による繁栄	上ノ国館跡(史跡)、夷王山神社、北海道上ノ国勝山館跡出土品(重文)、アイヌ民族と和人の歴史			夷王山山頂からの眺望	コシャマイン、武田信広、蠣崎光広・季広・慶広・高広・基広	上ノ国昔踊り	
近世	江戸(前期) 江戸(中期) 江戸(後期)	檜山番所の移転 古建築と漁業の発展	檜山番所、イクバスイ、大蔵鯨		駒ヶ岳d火山灰(Ko-d)		ジェロニモ・デ・アンジェリス	上ノ国昔踊り	
			上ノ国寺本堂(重文)、上ノ国八幡宮(道)、砂館神社(道)、旧笹浪家住宅(重文)、円空仏、天下泰平、京谷家のニシン漁具	けんちん汁、クジラ汁、かたこもち、こうれん汁、ゴッコ汁、ゼンマイの一本煮	寛保津波の痕跡、箱岩、扇石、トド岩、寅の沢と猫の沢	ホッケ干し、ウニ・アワビ漁	菅江真澄、ニシン	石崎奴(町)、大留鹿子舞(町)、各地区のお祭り	
			神の道、昇平丸大平山の穴、オフトの穴、龍燈伝説		大滝	ニオ積み、はさがけ	新村久兵衛		
近・現代	明治 大正 昭和	農業の発展 開発	石崎漁港トンネル、中外鉦山	アユ釣り	ブラックシリカ	天の川の遊歩道、旧江差線の駅裏風景	木村隆吉、金子鶴雄		みんな優しい、釣り場が多い、自然豊かで静か、食べ物が多い、子育てしやすい、歴史ある町、星がきれい
			歴史の道100選、天の川と戦国時代の山城を訪ねるみち	上ノ国の郷土料理、フルーツポーク	大安在浜の冬の荒波	道の駅もんじゅから見える景色、日本海に沈む夕日、湯ノ岱の紅葉	カミゴン、ゴジラエビ	エゾ地の火祭り、コシャマイン慰霊祭	
	平成	カミゴンと住みやすい町							

表1 時代別の特徴的なマイ文化財一覧

●上ノ国町の歴史文化の特徴

1	自然環境	海底火山によって形成された地形やヤマセなどの自然環境から生まれた歴史文化 ・自然－ヤマセ、ハイアロクラスタイト、海成段丘などのジオサイト
2	交易	中世における日本海交易の繁栄による歴史文化 ・歴史－史跡上之国館跡、アイヌと和人の歴史など
3	産業	上ノ国の農業・漁業を中心とした産業によって形成された歴史文化 ・景観－ニオ積み、はさがけ、食文化－郷土料理、歴史－京谷家のニシン漁具など

これらの歴史文化の特徴を基にして、関連文化財群を設定することとした。

2. 関連文化財群の構成

マイ文化財は、今を生きる私たちの大切な記憶であると同時に、今後のまちづくりを担う子どもたちにとって不可欠な基本要素である。

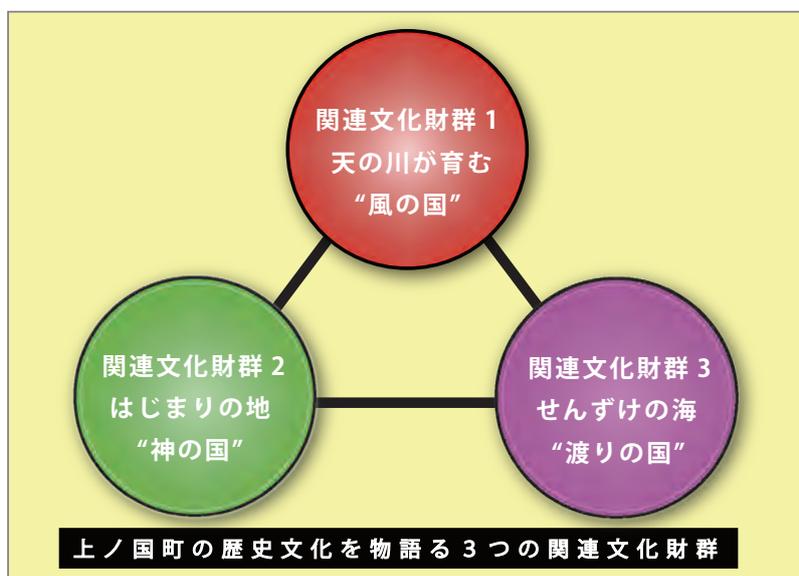
伝統と魅力ある地域文化の育成には、選ばれたマイ文化財の背景や関連性を見出し、地域の個性を引き立たせ、一体的な活用を図る取り組みが必要となるため、「上ノ国町特有の地域性と文化を物語るマイ文化財のまとめり」を関連文化財群と捉えることにした。集められたマイ文化財は、上ノ国町の基盤を成す地形から、史跡上之国館跡に代表される中・近世の遺跡や遺物、そして道の駅や、ゆるキャラのカミゴンなど、まさに多種多様なものがある。

私たちは、マイ文化財を地域ごとや年代ごとに整理し、この地を特徴づけた地形の変遷や、旧石器時代から現在に至るまで連綿と続く人々の生活の営みに着目し、幾つもの関連文化財群の案を考え出しては検討を重ねた。

その中で、地形・地質の特徴や、天の川を吹き抜ける強い風が多くの伝説や文化を生み出し、独特の景観を形作ってきたことに改めて気づかされ、これを①「**天の川が育む“風の国”**」(下図の●)として、一つ目の関連文化財群を設定した。

また、道内で最初に和人の館が築かれ、『松前年代記』に「神ノ国」と記された歴史を重視し、アイヌ文化と和人文が混交していた時代を中心として、②「**はじまりの地“神の国”**」(下図の●)を設けた。

更に、豊富な海産物をもたらすと同時に海の道として文物と人が往来した日本海の恵を大漁という意の地元の方言を用いて、③「**せんずけの海“渡りの国”**」(下図の●)とし、これら3つを現段階での関連文化財群とし、保存活用計画の検討をすすめることとした。



② 関連文化財群のキーワード

A. ヤマセ～強烈な東風～



天の川の浸食によって形成された上ノ国町と木古内町を結ぶラインは、周囲の標高より約 300 m も低い谷地形となっており、太平洋側（木古内方面）からのヤマセの進入を容易にし、「風の谷」を形成していた。

B. 50 万年を物語る海岸段丘



道の駅もんじゅ～夜明けの塔の階段状に連なる地形は、12～50 万年前に形成された海岸段丘である。

かつて、この周辺の地形は海底に所在し、長い年月の波の浸食によって平坦になり、地震による隆起が繰り返されることで形成された。

C. 海底火山で形成された地形



道の駅もんじゅ周辺の海岸では、溶岩流が水中で冷却固結した岩体の一種の枕状溶岩をみることができる。

枕状溶岩は、丸太状または俵状の団塊の積み重なりからなる。ガラス質の緻密（ちみつ）な薄い皮殻をもち、中心部に放射状の節理がある。

D. 神の道（伝説）



大潤ノ崎にある鳥居に向かい海の中から階段状に続く箇所が「神（かん）の道」である。

ここは、地元の伝説で海の神の竜神様が太平山に住む山の女神様に会いに行ったものとされている。

表2 関連文化財群を構成するマイ文化財 (No.はマイ文化財一覧表に対応)

No.	マイ文化財	地 区	大分類	小分類	説 明
17	天の川の河口の砂洲・砂嘴	上ノ国	自然	海浜	天の川から運ばれた砂や礫が沿岸流によって海岸に堆積してできた地形。
38	窓岩	大澗	自然	海浜	立待の犬滑り穴といい、太平山の洞穴につながっているとみられる。
41	ハイアロクラストイト	原歌	自然	海浜	マグマが水に急冷されてできた細かい碎屑粒子を主体とする岩石。
42	ポットホール	原歌	自然	海浜	岩盤にできる円筒形の穴で、日本最大級の大きさ。
43	枕状溶岩	原歌	自然	海浜	溶岩流が水中で冷却固結した岩の一種。
311	海成段丘	原歌	自然	海浜	形成時期が異なる(約50万年前～約12万年前)段丘面が、ほぼ連続して分布している。
278	七つ岳	湯ノ岱	自然	山	標高957mで山頂は知内町、福島町の町境となっている。湯ノ岱地区の人々から愛着がある。
291	湯ノ岱温泉	湯ノ岱	景観	場所	温泉施設の保養センターは、昭和50年開設
501	ヤマセ		自然	山	春先から秋にかけて吹く東風
214	太平山の穴	桂岡	歴史	伝説	オフトの穴とつながっているとされる。
83	大蔵鯨	勝山	歴史	伝説	ある年、鯨の群来がないことから、大蔵卿が祈祷した。その結果鯨が群来て大漁となったが賤しい人たちが祈祷を否定したことから大蔵卿は怒りのあまり食べ物を絶って死んだ。
584	天下泰平	勝山	歴史	伝説	「福山秘府」で大平山が鳴動し天の川河口が砂で塞がれるとよくない事の起きる知らせと紹介される。
585	カミゴン		まつり	現代	えぞ地の火まつりキャラクター。平成23年生まれ。「龍燈伝説」をモチーフにしている。
276	アユ釣り	湯ノ岱	食文化	現代	地元愛好会がアユの稚魚を放流している。
290	湯ノ岱の紅葉	湯ノ岱	景観	景観	秋に色づくときれいな景色となる。
35	オフトの穴	原歌	歴史	伝説	太陽光が入ると竜神様が来たように光る。
36	龍燈伝説	原歌	歴史	伝説	海上から昇る光が、海の神「龍神」の「龍燈」で、太平山の女神に逢いに行くという伝説。
87	風車のある風景	勝山	景観	景観	夜にキラキラ光っているのがきれい。
254	宮越の田園風景	宮越	景観	景観	宮越地区の西側に水田が広がっている。
307	ブナ林施業公園	膳棚	景観	場所	北海道森林管理局が整備を進め平成12年に完成。全域で85ヘクタールあり、遊歩道や遊具、四阿などが整備される。
302	ブラックシリカ	神明	自然	山	学術上は黒鉛珪石。マイナスイオンを放射する天然石・産出地は神明でこの周辺でしか採掘されない。
481	かたこ餅		食文化	伝統	うるち米ともち米を混ぜて粉にして、砂糖や黒砂糖を入れてこねて、木型に抜いて、蒸した郷土料理。彼岸などに作られる。

(2) はじまりの地 “神の国”

① ストーリー

北海道は明治以降の開拓の歴史がよく知られているが、上ノ国町ではそれより古い室町時代から江戸時代の史跡や建造物が多く点在し、まさに松前年代記に“神ノ国”と記されるとおり、北海道の中世史を語るはじまりの地であることを示している。

特に天の川河口周辺は、松前氏の祖とされる武田信広や蠣崎季繁が築いた花沢館跡・洲崎館跡・勝山館跡（史跡上之国館跡）や、北海道最古の民家（重要文化財旧笹浪家住宅）、寺院（重要文化財上ノ国寺本堂）、神社（北海道指定有形文化財上ノ国八幡宮本殿・砂館神社）が集中し、重要文化財を含む勝山館跡出土品から、アイヌと和人の関係性についても改めて注目されている。

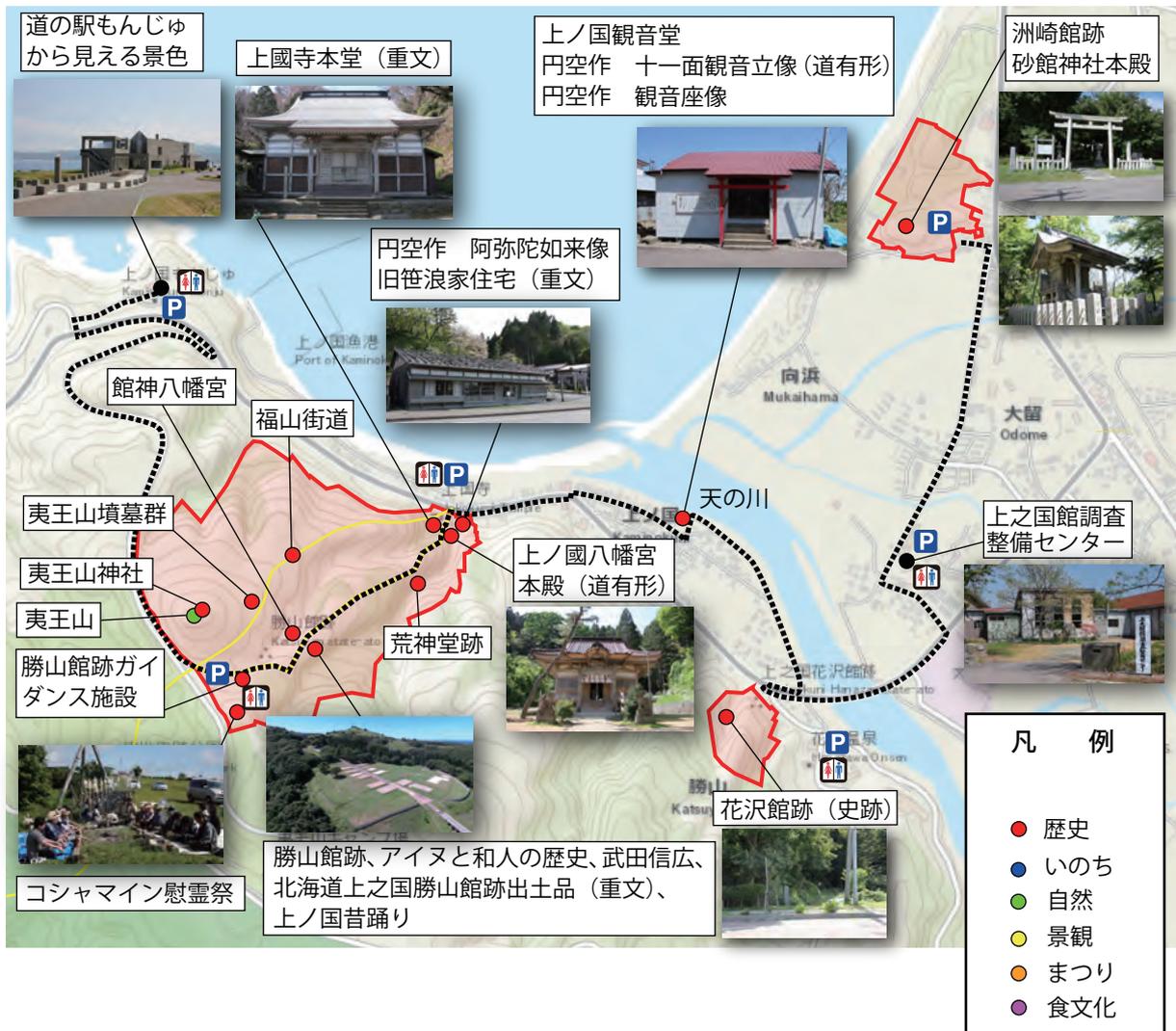


図2 はじまりの地 “神の国”

② 関連文化財群のキーワード

A. 松前氏の繁栄を築いた館跡群



天の川河口周辺に所在する上之国館跡（花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡）は、後の松前氏の祖先にあたる蠣崎氏が拠点を構えた中世城館である。

勝山館跡は、当時の遺構が現地に復元され、併設するガイダンス施設で出土品や模型・映像をみることができる。

B. アイヌと和人の混住



勝山館跡では、発掘調査の成果から館の中に和人とアイヌが混住していたことが明らかとなっている。

重要文化財「北海道上之国勝山館跡出土品」やアイヌ墓は、それらを物語る貴重な資料である。

C. 北海道最古の建造物群



上国寺本堂や上ノ国八幡宮本殿は、その創建が戦国時代にさかのぼり、旧笹浪家住宅は江戸末期のニシン漁が繁栄した時期に建築されている。道内でも珍しい中世～近世の歴史遺産が凝縮され、北海道史のはじまりを語る上で欠かせない地域となっている。

D. 蝦夷地の中世を今に伝える舞



上ノ国昔踊りは、戦国時代の戦勝祝いの際に踊ったと伝えられ、武士の重厚さがあふれ出す所作が特徴である。この踊りは、隣町の江差町の「鮫踊り」と所作が似ている。

しかしながら、「鮫踊り」は節を付けた囃子詞を用いるのに対し、「昔踊り」は古来よりの伝承で節無しの囃子詞だけで踊ることとなっている。

表3 関連文化財群を構成するマイ文化財 (No.はマイ文化財一覧表に対応)

No.	マイ文化財	地 区	大分類	小分類	説 明
466	アイヌと和人の歴史	上ノ国	歴史	有形	アイヌと和人の出土品やお墓からアイヌと和人が混住していたと考えられる。
312	道の駅もんじゅから見える景色	原歌	景観	景観	海底火山によって形成された地形と海と夕日が織りなす秀逸な景観。
5	上ノ国八幡宮本殿 (道指定)	上ノ国	歴史	有形	現在の本殿は、元禄12(1699)年の建立で神社建築として、北海道最古とされる。
6	旧笹浪家住宅(重文)	上ノ国	歴史	有形	5代目の笹浪久右衛門が天保年間に建築したといわれ、北海道最古の民家。
52	上之国館跡 花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡 (史跡)	勝山・北村	歴史	遺跡	昭和52(1977)年に勝山館跡、花沢館が指定され、平成18(2006)年に洲崎館が指定となったことで統合している。
30	上ノ国昔踊り	上ノ国	まつり	伝統	戦いで勝利した際の凱旋踊りとしたことに由来。江差の鮫踊りなどの原型となる。
44	夷王山神社	勝山	歴史	有形	祭神は武田信広。永禄元(1560)年の創立といい、松前家の崇敬の念厚く歴代藩主が祖廟詣をした。
45	勝山館跡ガイダンス施設	勝山	歴史	有形	勝山館跡の案内施設として、平成17年開設された。
526	武田信廣		いのち	人	勝山館を築くとともに松前藩祖となる。
47	上國寺本堂(重文)	勝山	歴史	有形	現在の本堂は宝暦8(1758)年建立で寺院建築として、北海道最古とされる。
100	コシャマイン慰霊祭	勝山	まつり	伝統	平成5(1993)年から夷王山で7月第一土曜に実施。コシャマインと勝山館のアイヌを慰霊。
46	北海道上之国勝山館跡出土品(重文)	勝山	歴史	有形	勝山館の921点が指定されている。平成20(2008)年7月10日指定。
84	夷王山	勝山	自然	山	勝山館の後方にそびえる。
54	夷王山墳墓群	勝山	歴史	遺跡	勝山館の人たちの墓が600基程度分布する。
348	福山街道(歴史の道百選)	勝山	歴史	遺跡	勝山館跡や近世にも使用された道。
3	上ノ国観音堂	上ノ国	歴史	有形	地元の観音講が管理する。
1	円空作十一面観音立像 (道指定)	上ノ国	歴史	有形	北海道で唯一の十一面観音で一番大きい。
2	円空作 観音座像 (町民有指定)	上ノ国	歴史	有形	摩耗が著しく、首のない円空仏で体の悪い部分を削ったりして煎じたとされる。
104	円空作阿弥陀如来像 (町指定)	大留	歴史	有形	北海道で唯一の阿弥陀如来像。
101	上之国館調査整備センター	大留	歴史	有形	文化財の保管・展示・整理施設。
21	天の川の遊歩道	上ノ国	景観	場所	天の川沿いの野鳥や歴史を散策できる道。
55	荒神堂跡	勝山	歴史	遺跡	勝山館城代の基広の墓。
56	館神八幡宮跡	勝山	歴史	遺跡	勝山館の守護神として文明5(1473)年に創建。
142	砂館神社本殿(道指定)	北村	歴史	有形	創建は室町時代の寛政3(1462)年に遡る。

(3) せんずけの海 “渡りの国”

①ストーリー

上ノ国町の日本海は、江戸～明治時代にかけてニシン漁の盛況によってまさにせんずけ（方言で「大漁」の意）の海となっていた。当時は、北前船による物流のみならず、本州からの人の往来も盛んであった。その中でも特に上ノ国町の海方面は、江戸時代に円空・菅江真澄・旧笹浪家の人たちが訪れ、汐吹地区の漁師が追いニシンによる余市漁場の開拓を行うなど人の出入りが激しい地域であった。

大正時代以降、ニシン漁でにぎわう浜の姿は見られなくなったが、汐吹漁港や小砂子地区では、日本海に沈む夕日を背景に出入りする船や、水揚げ、ホッケ干しなどの風景を今もみることができる。

さらに、昭和時代に入ると石崎地区の漁港トンネルや中外鉦山の溶焼炉などの近代化遺産とともに今も浜の景観と文化を体感できる地域となっている。

②関連文化財群のキーワード

A. 円空仏



上ノ国町では、日本海沿いで6体の円空仏が上ノ国観音堂、木ノ子光明寺、北村地藏庵、石崎八幡神社、旧笹浪家住宅で大切にされ、今でも地域の篤い信仰を集めている。

現在の岐阜県で生まれた円空は、寛文6（1666）年の時に北海道へ渡って仏像を残したといわれている。

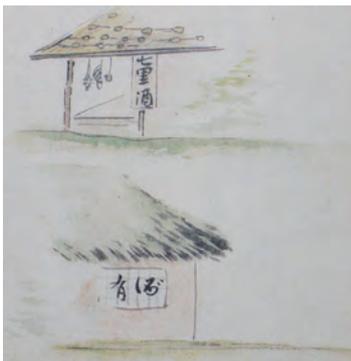
B. 重要文化財 旧笹浪家住宅



旧笹浪家住宅（主屋）は、代々ニシン漁で栄えた能登屋笹浪家の住居と仕事場として使われた建物（1826～1838年の間に建築）で道内最古の民家建築である。

笹浪家は、能登半島に所在した笹浪村出身とされる。

C. 菅江真澄



三河国（愛知県三河地方）出身の菅江真澄は、寛政元（1789）年に上國寺の松逄上人と語り合った後、周辺の街並みを見学した際にユーモアのある看板を描いている（左の写真）。

「七里酒」は、二里と五里で二五里（濁り）酒と表現したものである。一方の「酒有」は、酒という字に濁点をつけて濁り酒を表現したものである。

当時、北海道では米が貴重で濁り酒の製造が禁止されていたため、間接的にかつユーモラスな方法で知ってもらおうというものである。

D. 京谷家のニシン漁具



ニシン漁に使用した刺し網とアバである。アバには、墨書で「鯧大漁」や天保・慶応のほか明治時代を中心に記載されている。

京谷家のアバは、日本海から約3km内陸の中須田地区でみつかったもので、江戸～明治時代にかけて春先のニシン漁が盛況の際、農家が漁に従事していたことを物語る資料である。

E. 日本海の漁村文化



小砂子地区の家々では、家の軒先にホッケ干しなどの風景をみることができる。

また、郷土料理として、地元の海で獲れるひじきを大量に入れたけんちん汁は、町内でも小砂子地区だけの郷土料理として知られている。

F. 中外鉱山～鉱山資源の開発～



昭和14(1939)年7月に八田満次郎が創業。昭和18(1943)年に中外鉱業(株)が買収し開発が進む。昭和35(1960)年には、鉱業の好調によって上ノ国の人口が15,000人と最多になる。機械化がすすみ快適な環境で生産され、厚生施設も完備されていた。昭和61(1986)年休山。

G. 四季折々の秀逸な自然景観



日本海を望む海岸線からは、至る所から夕日を望むことができる。小砂子地区では、灯台越しの夕日、石崎地区では比石館跡の鳥居越しの夕日、木ノ子地区では古館スタンド前の夕日、道の駅もんじゅの夕日が人気である(写真は、比石館跡の鳥居越しの夕日)。

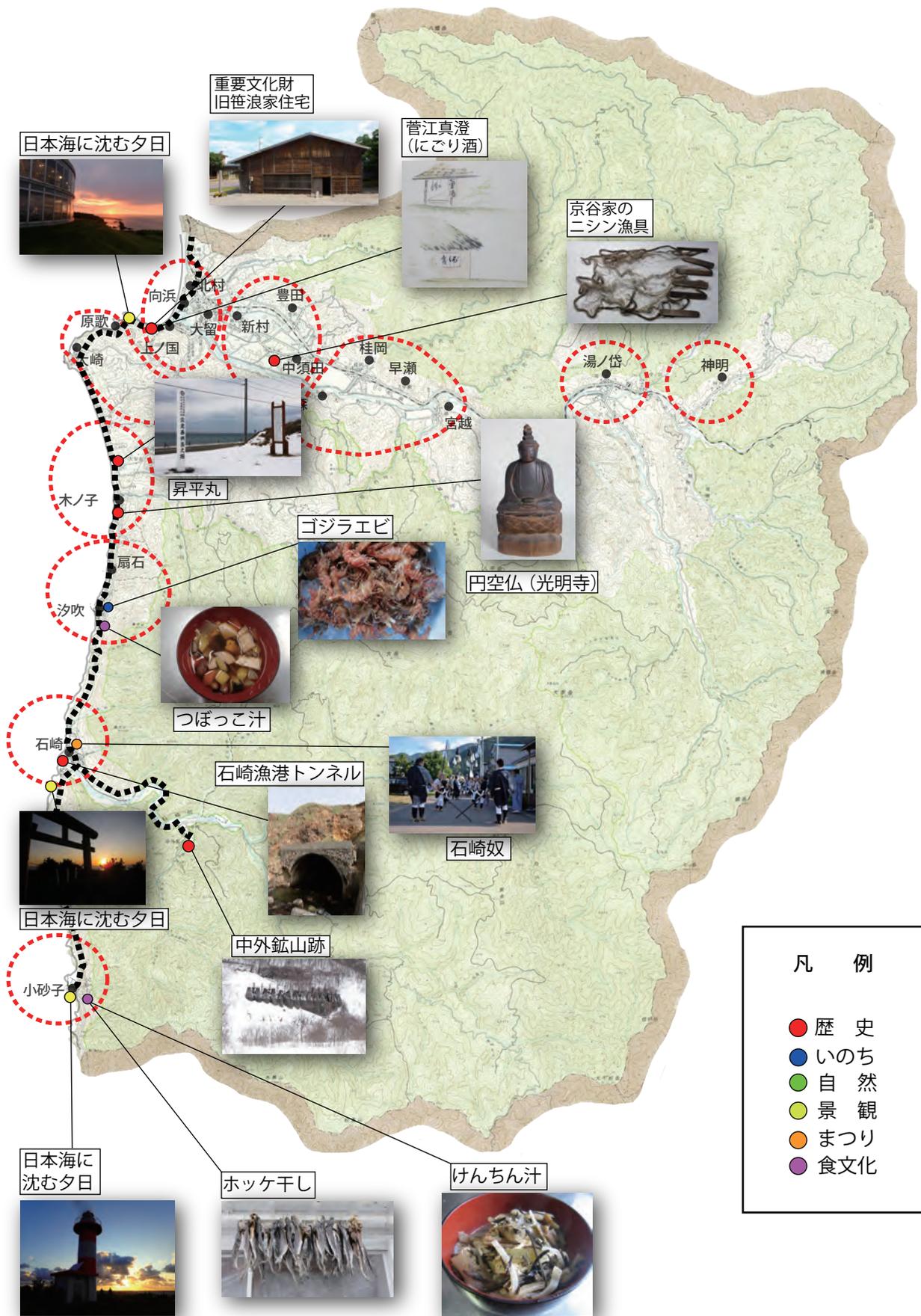


図3 せんずけの海“渡りの国”

表4 関連文化財群を構成するマイ文化財 (No.はマイ文化財一覧表に対応)

No.	マイ文化財	地 区	大分類	小分類	説 明
6	旧笹浪家住宅（重文）	上ノ国	歴史	有形	5代目の笹浪久右衛門が天保年間（1831～1845）に建築したといわれ、北海道最古の民家。
532	菅江真澄		いのち	人	寛政元（1789）年に上ノ国を訪れ、民俗的な記録を残す。
173	京谷家のニシン漁具	中須田	歴史	有形	江戸時代末期から大正にかけて実際のニシン漁に使用された漁具。
349	昇平丸	木ノ子	歴史	遺跡	幕末に薩摩藩が建造した洋式軍艦。明治3年に猫の沢沖で座礁し破船する。
330	円空仏（光明寺）	木ノ子	歴史	有形	木ノ子光明寺に伝わる円空仏
367	つぼっこ汁	汐吹	食文化	伝統	金時豆やニンジン、豆腐、ちくわなどをしょう油仕立ての汁で煮てある。主に小正月などに作られる。
384	ゴジラエビ	汐吹	いのち	動物	学名はイバラモエビ。
407	石崎漁港トンネル（登録有形）	石崎	歴史	遺跡	昭和9（1934）年に比石館跡の下部に長さ45m、幅9mの半円形の断面コンクリートブロック造りのトンネルが設けられた。昭和58年まで利用される。
439	石崎奴（町指定）	石崎	まつり	伝統	道中振りで長柄の槍を振り立てて行進する。進行に際しては、一人が上の句を歌い、もう一人が下の句を歌いながら行進する。
409	中外鉱山跡	石崎	歴史	遺跡	昭和14（1939）年7月に八田満次郎が創業。昭和18（1943）年に中外鉱業（株）が買収し、マンガン鉱を採掘した。昭和61（1986）年休山。
448	小砂子のけんちん汁	小砂子	食文化	伝統	地元で採れるひじきを大量に入れて作る。
449	小砂子のホッケ干し	小砂子	食文化	伝統	家の軒先にホッケを干している。
513	日本海に沈む夕日		景観	景観	日本海を望む海岸線からは、至る所から夕日を望むことができる。

Ⅵ 関連文化財群の総合的な保存活用と課題

1. 基本方針

私たちが見出した3つの関連文化財群を、関係する地域住民が主体となって積極的に保存活用していくため、それぞれの関連文化財群を構成するマイ文化財が集中している範囲を中心として「歴史文化保存活用区域」を設定した。

2. 歴史文化保存活用区域設定の観点

「歴史文化保存活用区域」は、地域住民に身近なマイ文化財を様々に含み、日常的にその存在を意識すると共に、その保存活用を通じて歴史文化をまちづくりに反映させるための基盤となるものと位置づけ、以下の観点から区域を設定した。

- ・ 従来の指定文化財のみの保存活用に捉われず、その周辺に点在する未指定のマイ文化財と一体に面的な保存活用ができる地域であること。
- ・ 拠点となる道の駅や温泉施設・文化財施設などの各種施設と周囲に点在するマイ文化財を関連づけ、保存活用を取り進めること。
- ・ 文化的な価値の創出が、地域の祭典・行事などの復元や活性化を通じて、心豊かな「まちづくり」につながること。
- ・ 地域住民が保存活用を実践していく過程で、必要に応じて保存活用区域の見直し（拡大、縮小、追加等）を適宜行う。

関連文化財群と歴史文化保存活用区域の関係

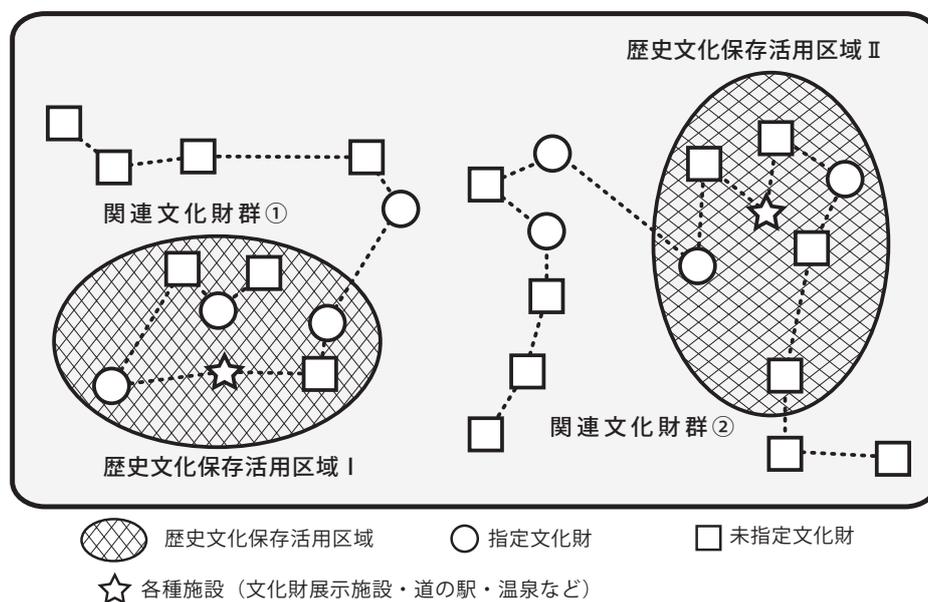


表1 関連文化財群と歴史文化保存活用区域

歴史文化保存活用区域名	地区	概要
天の川が育む風の国 関連文化財群	天の川河口周辺地区	上ノ国原歌 天の川河口部や道の駅もんじゅ周辺のジオサイトと伝説が含まれる地区。
	宮越・早瀬地区	宮越・早瀬 現在でもかたこもちやこうれんなど等の地元に採れる農産物を使った郷土料理を作る地区。
	湯ノ岱・七ツ岳地区	湯ノ岱 湯ノ岱温泉を拠点とし、アユ・ゼンマイなどの郷土料理や、秀峰七ツ岳、紅葉などの景観が残る地区。

表2 関連文化財群と歴史文化保存活用区域

歴史文化保存活用区域名	地区	概要
は「神の国」 関連文化財群 「はじまりの地」	史跡上之国館跡周辺地区 上ノ国	中世のアイヌと和人の文化が残る史跡上之国館跡周辺を象徴する地区。
「せんずけの海」 関連文化財群 「渡りの国」	木ノ子・汐吹地区 木ノ子 汐吹	かつて子どもたちが海水浴した場所やゴジラエビの水揚げや郷土料理のつぼっこ汁が残る地区。
	石崎地区 石崎	石崎漁港トンネルやマンガン鉱の産出で栄えた中外鉱山などの近代化遺産と、石崎奴などの郷土芸能が残る地区。
	小砂子地区 小砂子	ホッケ干しの風景やけんちん汁などの漁村文化が今なお色濃く残る地区。

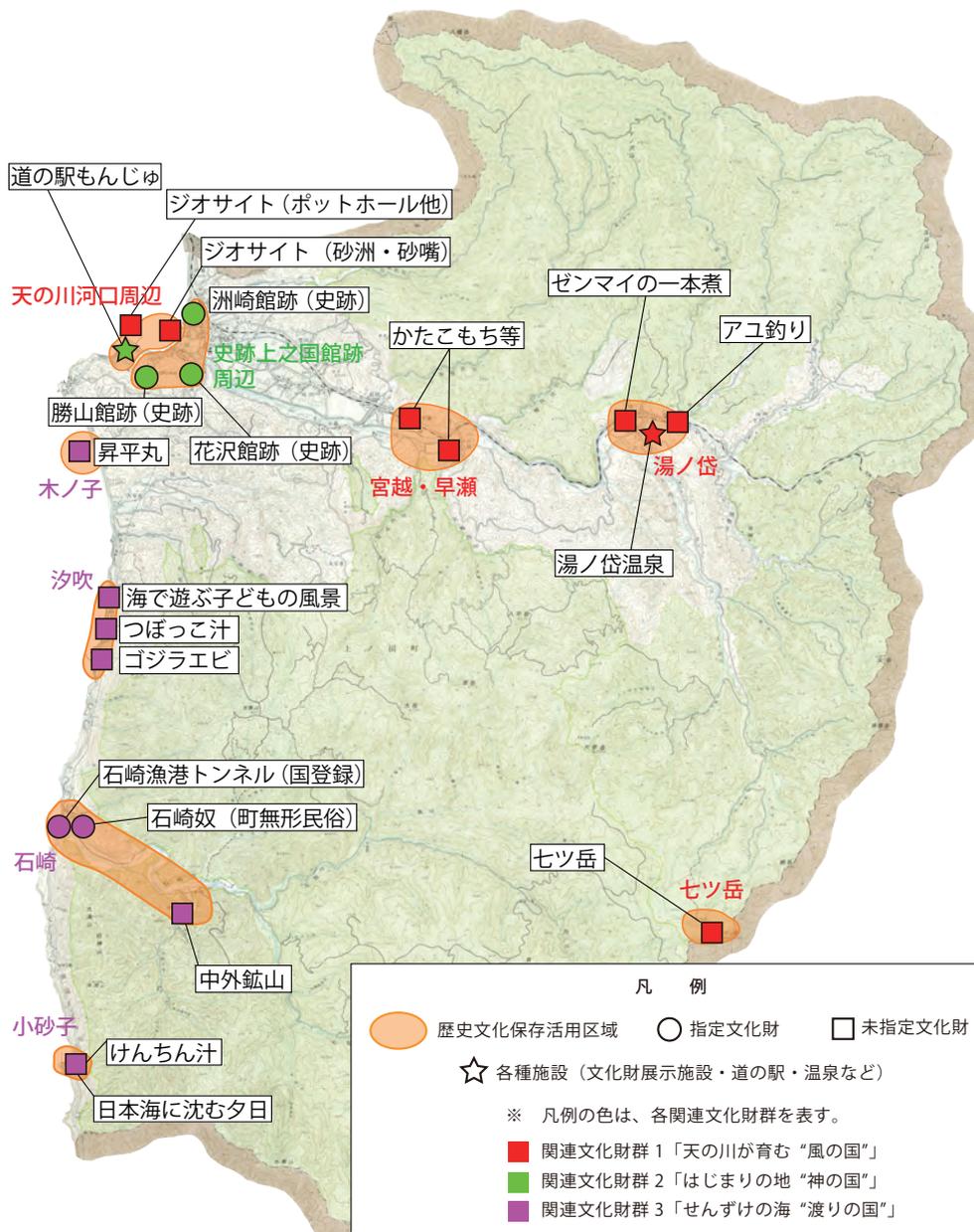


図1 歴史文化保存活用区域の範囲と構成する主なマイ文化財

3. 歴史文化保存活用区域における取組みと実施計画

調査部会では、設定した7件の歴史文化保存活用区域について、それぞれの取組み内容と手法、取組み主体、実施計画について検討を行った。

取組み主体は、町・団体・地域住民の三者とし、主として取り組む場合は「◎」、協力的に取り組む場合を「○」とした。

実施計画は、保存活用を行うに際し、優先順位や着手時期を想定したもので、前期・中期・後期に大別し、計画的かつ効率的に事業を進めることができるよう配慮した。各時期は、それぞれ前期：1～2年、中期：3～4年、後期：5～6年程度を想定した。

表3 関連文化財群1 天の川が育む“風の国”

歴史文化保存活用区域名	保存活用の取組み内容と手法	取組主体			実施計画
		町	団体	住民	
天の川河口周辺地区	ジオサイトの整備・活用	◎	◎	○	中期
宮越・早瀬地区	かたこもち、こうれんなどの郷土料理の保存・継承	○	○	◎	中期
湯ノ岱・七ツ岳地区	アユを活かした体験学習やゼンマイの一本煮などの郷土料理の継承・活用	○	○	◎	前期
	七ツ岳の登山道の整備	○	◎	◎	後期

表4 関連文化財群2 はじまりの地“神の国”

歴史文化保存活用区域名	保存活用の取組み内容と手法	取組主体			実施計画
		町	団体	住民	
史跡上之国館跡周辺地区	史跡上之国館跡（花沢館跡 勝山館跡 洲崎館跡）と福山街道（歴史の道百選）を関連付けた整備・活用	◎	◎	◎	中期
	北海道上之国勝山館跡重要文化財等出土品の展示・活用	◎	○	○	前期
	アイヌ文化と和人文化についての情報発信	◎	○	○	前期
	『松前年代記』『新羅之記録』等の文献史料の調査・整理	◎	○	○	前期
	祭典における伝統行事や上ノ国昔踊りの保存・継承	○	◎	◎	中期
	旧笹浪家住宅・上國寺本堂・上ノ國八幡宮本殿等の建造物の整備・活用	◎	○	○	後期
	円空仏や菅江真澄の記録の整備・活用	○	◎	○	中期

表5 関連文化財群3 せんずけの海“渡りの国”

歴史文化保存活用 区域名	保存活用の取組み内容と手法	取組主体			実施計画
		町	団体	住民	
木ノ子・汐吹地区	子ども対象の海に親しむ体験事業や郷土料理のつぼっこ汁などの郷土料理の継承	○	◎	◎	前期
石崎地区	石崎奴の継承	○	◎	◎	前期
	石崎漁港トンネルの整備、中外鉱山の説明板等の設置	◎	○	○	中期
小砂子地区	漁村文化の普及・啓発	○	◎	○	後期

表6 各関連文化財群に共通するもの

歴史文化保存活用 区域名	保存活用の取組み内容と手法	取組主体			実施計画
		町	団体	住民	
全域	町民参加による継続的なマイ文化財の調査	◎	◎	◎	前期
	大学等研究機関との連携による調査・研究	◎	○	○	前期
	統一的なサイン計画の策定	◎	○	○	中期
	マイ文化財を展示する施設の整備・活用	◎	◎	◎	後期
	マイ文化財を活かした体験・学習機会の創出	○	◎	○	中期
	マイ文化財や観光ガイドの育成・活動支援	○	◎	◎	前期

4. 保存活用計画の考え方

マイ文化財の保存活用について調査部会で検討した結果を踏まえ、表7のようなかたちでマイ文化財の保存活用計画について素案を作成した。

今後、地域住民と実際の活動を進める中で再検討を行いながら、より充実し、実効性の高い方策となるよう柔軟に変化させていきたい。

5. 保存活用を推進するための体制づくり

歴史文化の保存活用をより一層推進させるには、地域住民が自発的かつ主体的に地域のマイ文化財を活かしたまちづくりに参画することが不可欠となる。

そして、それを実践するためには、行政や有識者及び研究機関が、地域住民と同じ目線でマイ文化

財を活用したまちづくりに取り組み、意見交換を進めるなどきめ細かい対応を積み重ね、共働体制を図っていくことが大切である。

今回の事業では、マイ文化財の把握が十分ではない地区もみられるため、地域住民や団体が中心となって、役場、有識者、その他様々な機関や部署との連携し、今後も継続的にマイ文化財を調査していく必要がある。

そのため、マイ文化財の調査や保存活用事業の企画・立案及び運営を担う「神の国ファンクラブ」を創設し、円滑に歴史文化の保存活用を推進できる体制を整える（図2）。

神の国ファンクラブの組織化によって、高齢化や担い手不足が原因で活動が困難になっている団体が横の連携を深め、助け合える体制が生まれることも期待される。

また、集められたマイ文化財は、今後刊行が予定されている『上ノ国町史』に掲載し、町民自らが調査した自分たちの歴史文化を知り、それを次世代に継承していくサイクルの構築を目指す。

表7 保存活用計画素案

実施計画	関連文化財群	歴史文化保存活用区域名	保存活用の取組み内容と手法
前期	天の川が育む“風の国”	湯ノ岱地区	アユを活かした体験学習やゼンマイの一本煮などの郷土料理の継承・活用
	はじまりの地“神の国”	史跡上之国館跡周辺地区	北海道上之国勝山館跡重要文化財出土品の展示
			アイヌ文化と和人文化についての情報発信
			『松前年代記』『新羅之記録』等の文献史料の調査・整理
	せんずけの海“渡りの国”	木ノ子・汐吹地区	子ども対象の海に親しむ体験事業や郷土料理のつぼっこ汁などの郷土料理の継承
		石崎地区	石崎奴の継承
	全域	町民参加による継続的なマイ文化財の調査 大学等研究機関との連携による調査・研究 観光ガイドの育成・活動支援	
中期	天の川が育む“風の国”	天の川河口周辺地区	道の駅もんじゅ周辺のジオサイトの整備・活用
		宮越・早瀬地区	かたこもち、こうれんなどの郷土料理の保存・継承
	はじまりの地“神の国”	史跡上之国館跡周辺地区	史跡上之国館跡（花沢館跡 勝山館跡 洲崎館跡）を関連付けた整備・活用
			祭典における伝統行事や上ノ国昔踊りの保存・継承
			円空仏や菅江真澄の記録の整備・活用
	せんずけの海“渡りの国”	石崎地区	石崎漁港トンネルの整備、中外鉱山の説明板等の設置
全域		統一的なサイン計画の策定 マイ文化財を活かした体験・学習機会の創出	

後 期	天の川が育む “風の国”	天の川河口周辺 地区	天の川河口のジオサイトの保存・活用
		湯ノ岱地区	七ツ岳の登山道の整備
	はじまりの地 “神の国”	史跡上之国館跡 周辺地区	福山街道（歴史の道百選）の整備・活用
			旧笹浪家住宅・上國寺本堂・上ノ國八幡宮本殿等 の建造物の整備・活用
せんずけの海 “渡りの国”	小砂子地区	漁村文化の普及・啓発	
		全域	マイ文化財を展示する施設の整備

6. 構想推進の課題

(1) 構想の推進にあたり

上ノ国町では、今回の調査によって関連文化財群を構成するマイ文化財の中に地域でその価値が認められているにもかかわらず、近年の急激な都市部への人口流出・過疎化・少子高齢化による人材の不足によって、郷土の歴史文化の継承の危機に直面しているものが多数存在していることを把握することができた。

そして、歴史文化基本構想の指針に沿って指定・未指定の文化財やその周辺に所在する自然環境を一体として捉え、本構想が当町にとって今後のマスタープランとなるべく、3つの関連文化財群を見出した。

さらに、構想を円滑に推進するにあたり、従来の行政主導の取組みを脱却し、官学民を含めた三位一体で地域のマイ文化財を保存活用する体制を強化した。

また、体制では、行政内の企画・観光・産業・建築などの部署と連携を密にすることで、様々な角度からスポットを当てたマイ文化財の幅のある保存活用を目指した。

今後は、地域の人々がより多く参画し、社会状況の変容に伴い危機に瀕したマイ文化財について、地域の文化や経済の振興の核として未来へ継承する方策を模索し、マイ文化財がまちづくりの一翼を担い、これからの時代を切り拓く手段にふさわしいものになることが重要である。

(2) 歴史文化基本構想策定後の効果の確認と改訂

構想を推進するにあたり、当初の目的を達成することができたかどうかについて5年を目途に確認作業を実施する。その際に、町民・関係機関の価値観、及び社会状況の変化などによって構想の見直しが生じた場合は、改訂を行って円滑に取り進めるようにする。

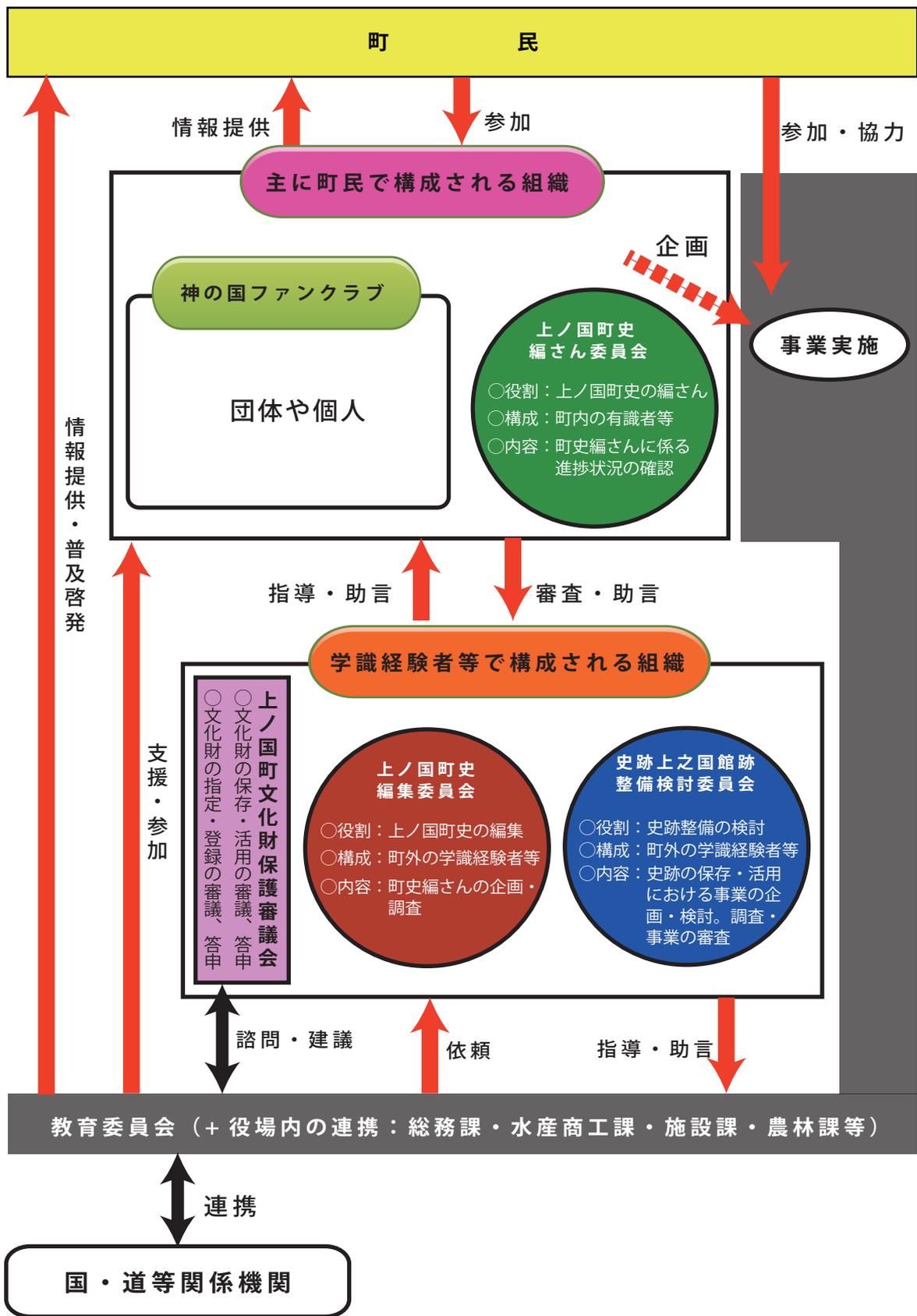


図2 歴史文化保存活用体制

資料

[資料1] 上ノ国町歴史文化基本構想策定委員会設置要綱

(目的)

第1条 上ノ国町内に所在する文化財をその周辺環境まで含めた上で、総合的に保存・活用する「上ノ国町歴史文化基本構想」を策定するため、上ノ国町歴史文化基本構想策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 策定委員会は、前条の目的を達成するために次の事項について検討する。

- (1) 歴史文化基本構想の策定に関すること。
- (2) その他前号に掲げる事項のために必要と認められること。

(組織)

第3条 策定委員会の構成は、委員15名以内をもって組織し、教育委員会が委嘱するものとする。

2 委員は、目的を達成するために必要があると認めるとき、又は策定委員会からの要請に基づき、追加で委嘱することができる。

3 策定委員会には必要に応じオブザーバーを置くことができる。

(設置期間及び任期)

第4条 設置期間は、平成28年9月29日から平成30年3月31日までとする。

2 任期は、任命の日から当該年度末までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任することができる。

(委員長及び副委員長)

第5条 策定委員会に、委員の互選により委員長及び副委員長を各1人置く。

2 委員長は、会務を総括して委員会を代表する。

3 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときにその職務を代理する。

(会議)

第6条 策定委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 策定委員会は、委員の過半数以上の者が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 策定委員会は、第2条に定める検討事項を遂行するため、必要に応じ関係者に対して会議への出席を求め、資料の提出、説明、その他必要な協力を求めることができる。

(部会)

第7条 策定委員会に第2条に定める検討事項を調査するため、上ノ国町歴史文化基本構想調査部会（以下「調査部会」という。）を置くことができるものとする。

2 調査部会に属すべき部員は、教育委員会が委嘱するものとする。

3 調査部会に、部員の互選により部会長及び副部会長を各1人置く。

4 部会長は会務を総括し、調査部会を代表して調査の経過及び結果を策定委員会へ報告する。

5 副部会長は部会長を補佐し、部会長に事故あるとき又は欠けたときにその職務を代理する。

6 部員の任期は、第4条に定める委員の任期と同じとする。

(事務局)

第8条 策定委員会の庶務は、教育委員会事務局文化財グループにおいて行う。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営に関して必要な事項は策定委員会が別に定める。

附 則 この訓令は、公布の日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

[資料2] 上ノ国町歴史文化基本構想フォーラムの実施

本構想の策定を記念して、町民への周知を目的としたフォーラムを行った。フォーラムでは、これまでの取り組みを報告するとともに、新たなマイ文化財を見出すための活動、本構想で設定された歴史文化保存活用区域の具体的な活用策や、まちづくりとの連携などが話し合われた。

日 時 平成30年3月17日[土]
午後1時55分～午後4時35分
(開場:午後1時25分)

場 所 上ノ国町総合福祉センター
ジョイじょくら

郷土料理試食
道の駅もんじゅ下にある枕状溶岩にちなんだ「枕状ようかん」
上ノ国の素材を使った「カミゴン汁」
※数に限りがございます。

- アトラクション / 「上ノ国昔踊り」披露
- 基 調 講 演 / 「上ノ国で楽しむ大地の公園 - 数億年前～現在の地形・地質・気象 -」
弘前大学教育学部 高橋未央、横山綾起、池原朔哉、小岩直人
- セレモニー / 「上ノ国町歴史文化基本構想」伝達式
- 調 査 報 告 / 「おらが町のこれから」 調査部会長 岩田 靖
- 試 食 タイム / 枕状ようかん&カミゴン汁の試食
- 意 見 交 換 / 「マイ文化財を活かしたまちづくり」
- 主 催 / 上ノ国町歴史文化基本構想策定委員会・同調査部会
- 後 援 / 上ノ国町教育委員会
- お 問 合 せ / 上ノ国町教育委員会文化財グループ TEL0139-55-2230 エソ地の火まつりキャラクター

神の国を楽しむ大地

上ノ国町歴史文化基本構想フォーラム

当日プログラム

	と 内 容	進行 策定委員会副委員長 神長 敬
13:00～	会場受付(はまるホール)	
13:05～14:05	アトラクション「上ノ国昔踊り」披露	
13:05～14:15	伝達式「上ノ国町歴史文化基本構想」 策定委員長 田才 雅彦 上ノ国町長 工藤 昇	
13:05～14:55	基調講演「上ノ国を楽しむ大地の公園 - 数億年前～現在の地形・地質・気象 -」 弘前大学教育学部 高橋未央、横山綾起、 池原朔哉、小岩直人	
14:55～15:15	調査報告「おらが町のこれから」 調査部会長 岩田 靖	
15:15～15:30	試食タイム <枕状ようかん&カミゴン汁の試食>	
15:30～16:30	意見交換 「マイ文化財を活かしたまちづくり」 今後のマイ文化財を活かしたまちづくりについて、みなさんと意見交換をします。	
16:30～16:35	閉 会	

【主 催】 上ノ国町歴史文化基本構想策定委員会・同調査部会
【後 援】 上ノ国町教育委員会
【問い合わせ】 上ノ国町教育委員会 文化財グループ TEL0139-55-2230

あ と が き

私と上ノ国町とのお付き合いは昭和54年からで、この春で丁度40年になりました。

この間、様々な遺跡の調査や、史跡上之国館跡の指定作業、そして重要文化財の活用に関する講演の機会などもいただき、私なりに上ノ国町の文化財を知った気になっておりましたが、今回の歴史文化基本構想策定作業を通じて、改めて上ノ国町の奥深さと幅広さに圧倒されました。

専門を活かした各委員の調査・研究成果は目を見張るものがあり、上ノ国町の歴史を彩る豊かな伝説が、50万年も前の地質時代に形作られた景観から生れてきたことや、「上ノ国」はそもそも「神の国」だった！？などなど、本書には地域の皆さんも驚かれる内容が盛りだくさんです。

しかし、何より素晴らしい成果は、調査部会の皆さんが中心となって各地区へ出向き、それぞれに伝わる伝統行事や食文化などを丹念に調査し、記録に収めて下さったこと。そして、保育園児から大人まで、あらゆる世代の方々が、それぞれ大事に思う“マイ文化財”を挙げて下さったことです。

こうした皆さんのご努力とご協力が積み重ねられていく過程で、一度は途絶えていた「上ノ国昔踊り」が見事に復活を遂げました。

また、「藩主御膳」再現の試みなども始まっていますし、新たな郷土料理「カミゴン汁」や銘菓「枕状ようかん」も生み出されました。

私たちは、皆さんが選んで下さった“マイ文化財”を集計・整理しながら、本当に多種多様なものがあることを再認識しましたが、特に子どもたちが、「元気なお年寄り」や「地域の人たちの優しさ」を町の宝と感じ、大事にしていきたいと思っていることを知り、この町には、私たち策定委員会が目指した「文化財を今後の地域づくり・まちづくりに活かし、私たちの日常生活を“くるまれていて安らぐもの・楽しいもの”にしていく」素地が充分にあることを確信いたしました。

本構想では、上ノ国町らしい“マイ文化財”の分類として、①歴史、②食文化、③自然、④景観、⑤いのち、⑥まつり、⑦印象の7つに整理した上で、「天の川が育む“風の国”」、「はじまりの地“神の国”」、「せんずけの海“渡りの国”」という3つの関連文化財群を設定いたしました。

今後は、これらの活用を通じて更に広く深く各地区の魅力を見出し、上ノ国町の素晴らしさを未来へ引き継いでいっていただくと共に、さらなる関連文化財群を見出して、活用の可能性を広げていただき、「神の国の大地の楽しさ」を、自信を持って世界へ発信していきましょう！

上ノ国町歴史文化基本構想策定委員会
委員長 田 才 雅 彦

<引用参考文献>

●Ⅰ 歴史文化基本構想の概要

司馬遼太郎 1994『風塵抄』中公文庫

●Ⅱ 上ノ国町の概要

・2. 自然的特徴 (1) (2)

石渡 明・小泉一人・市山祐司,・柳田祐樹, 町 澄秋 2006 「北海道渡島帯, ジュラ紀付加体中の小砂子緑色岩体の褶曲構造」『地質学雑誌』112, VIII~XIV.

大森博雄 1975 「北海道渡島半島江差付近の海岸段丘」『第四紀研究』14, 63-76.

菅野洋光 1993 「青森県八戸におけるヤマセと海風の気温・湿度の差異とその季節変化」『天気』40, 751-757.

小池一之・町田 洋 2001「日本の海成段丘アトラス」東京大学出版会

小島圭二・田村俊和・菊池多賀夫・境田清隆 1997 「日本の自然 地域編2 東北」岩波書店, 205p.

児玉安正・黒瀧あゆみ・横須賀美香・和田幸恵・佐藤笑・橋口浩之・古本淳一・東邦昭・津田敏隆・瀬古 弘
2014 「青森県六ヶ所村で実施している陸上のヤマセの詳細観測-2014年のヤマセ観測の結果について」『第10回ヤマセ研究会発表資料』<http://wind.gp.tohoku.ac.jp/yamase/reports/meeting10.html> 2017年2月26日閲覧.

境田清隆 2010 「近年におけるヤマセ出現時期の変化について」『第2回ヤマセ研究会発表資料』<http://wind.gp.tohoku.ac.jp/yamase/reports/meeting2.html> 2017年2月24日閲覧.

弘前大学自然地理学研究室 2017 上ノ国町「文化財活用調査委託業務」報告書, 144頁.

町田 洋・新井房夫 2003 「新編火山灰アトラス」東京大学出版会.

八木浩司・齋藤宗勝・牧田 肇 (1998) 白神の意味. 自湧社, 159頁.

八木澤陶史 2010MS 「温暖化に伴うヤマセの出現傾向の変化」東北大学大学院理学研究科地学専攻修士論文.

・2. 自然的特徴 (3)

NHK出版 2013『里山の山菜・木の実ハンドブック』多田多恵子監修 NHK出版

環境庁 1984『現存植生図 - 第3回自然環境保全基礎調査 (植生調査)』環境庁

長沢武 2012『野外植物民俗事苑』ほおずき書籍

橋本郁三 2007『食べられる野生植物大辞典-草本・木本・シダ』柏書房

宗像和彦・綿路栄一・工藤光信 1985「勝山館周辺の植生」『史跡上之国勝山館VI』上ノ国町教育委員会

山田悟郎 1985「勝山館跡の古環境について」『史跡上之国勝山館VI』上ノ国町教育委員会

山田悟郎 2005「上之国勝山館跡から出土した花粉・孢子、種子、寄生虫卵について」『史跡上之国勝山館XXVI』上ノ国町教育委員会

渡邊定元 1988「渡島・檜山・後志支庁の植生」『日本植生誌 北海道』至文堂

門田裕一 2016「オトギリソウ科」大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編)『改訂新版日本の野生植物 3』: 234-247. 平凡社.

金鍾元・中村幸人 1988夏緑広葉樹林. 宮脇昭 (編)『日本植生誌 北海道』: 166-169. 至文堂

鈴木時夫 1949「北海道檜山地方のブナ林に就いて」『日本林学会誌』31 (5) : 138-145

・3. 歴史的特徴 (2) ①②

青森市教育委員会 2014 『石江遺跡群 発掘調査報告書VII -石江土地区画整理事業に伴う発掘調査- (第3分冊: 新田 (1) ・ (2) 遺跡本文編、石江遺跡群補遺編・分析編5・総括編)』青森市埋蔵文化財調査報告書第116集-3

- 齊藤利男 2002「安藤氏の乱と西浜折曾関・外浜内末部の城郭遺跡」『北の環日本海世界—書きかえられる津軽安藤氏—』
- 齋藤利男2014『青森の安藤氏—檜山安東氏・湊安東氏の前史—』美の国アクティブカレッジ
あきたふるさと学講座「秋田の戦国時代」
- 榊原滋高 2004「十三湊の都市構造と変遷—発掘調査10年の成果から—」『中世十三湊の世界』
- 市浦村教育委員会 2003『十三湊遺跡～平成13年度第145次発掘調査報告書～』市浦村埋蔵文化財調査報告書第15集
- 市浦村教育委員会 2005『十三湊遺跡—第90・120・151・155次発掘調査報告書 本文編—（第Ⅱ分冊）』市浦村埋蔵文化財調査報告書第17集
- 鈴木和子 2014「中世安藤氏の城館と福島城跡」『第2回南部学研究会—中世南部氏と北日本の中世城館—』
- 鈴木和子 2015「下国安藤氏の城館 福島城跡—中世方形居館—」『第5回安東氏シンポジウム 東アジア大航海時代の上国・下国と秋田』
- 関根達人 2014『中近世の蝦夷地と北方交易—アイヌ文化の内国化—』
- 塚田直哉 2015 「北海道上之国町洲崎館跡出土の中世陶磁器」『貿易陶磁研究』No.35 日本貿易陶磁研究会
- 函館市教育委員会 1986『史跡志苔館跡—昭和58～60年度環境整備事業に伴う発掘調査報告書—』
- 北海道庁 1969「新羅之記録」『新北海道史』第七巻史料一
- 藤澤良祐 1996 「中世瀬戸窯の動態」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～』（財）瀬戸市埋蔵文化財センター設立5周年記念シンポジウム
- 中村和之 2005「十五世紀のサハリン・北海道の交易」『海と城の中世』東北中世考古学会 高志書院
- 永田富智 1968「上ノ国への和人定着年代について」『新しい道史』27
- 松崎水穂・百々幸雄・中村公宣1981「北海道洲崎館跡発見の中世遺物と頭骨」『考古学雑誌』第67巻第2号
- 森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2
- 八重樫忠郎 2002「平泉藤原氏の支配領域」『平泉の世界』高志書院
- 八重樫忠郎 2015 「宇隆1遺跡の意味」『厚真シンポジウム 遺跡が語るアイヌ文化の成立—11～14世紀の北海道と本州島—』
- ・3. 歴史的特徴（2）③
- 市毛幹幸 2008「蝦夷地における異民族との接触と衝突—一七世紀後半の寛文蝦夷蜂起を中心として—」（浪川健治・佐々木馨編 長谷川成一監修『北方社会史の視座 歴史・文化・生活 第2巻』清文堂出版）
- 榎森進 2007『アイヌ民族の歴史』第5章、草風館
- 大石直正 2001「北の周縁、列島東北部の興起」（大石直正・高良倉吉・高橋公明『日本の歴史14 周縁から見た中世日本』講談社）
- 海保嶺夫 1987『中世の蝦夷地』吉川弘文館 212頁掲載図
- 未来社 1971 菅江真澄「えみしのさえき」 1789（寛政元）年水無月15日条（『菅江真澄全集 第二巻 日記Ⅱ』、70頁所収） 医王山頭陀寺 永禄七年三月
- H・チースリク編 1967『北方探検記—元和年間に於ける外国人の蝦夷報告書—』吉川弘文館
- 松崎水穂 2001「勝山館跡とその城下の謎—発掘調査二〇年の成果と展望」（網野善彦・石井進編『北から見直す日本史 上ノ国勝山館跡と夷王山墳墓群からみえるもの』大和書房、187頁）
- 山田秀三 1983『アイヌ語地名の研究 第三巻 山田秀三著作集』草風館、49頁、九 戸賀（初出『東北と北海道のアイヌ語地名考—山河を愛する人々に捧ぐ』楡書房、1957年）
- 松前町町史編集室 1984「第二編中世の松前 第二章 室町・戦国期の北奥羽と松前」『松前町史』通説編第一巻上 松前町

北海道 1969「新羅之記録」『新北海道史』第7巻史料1

北海道 1937「福山秘府」『新撰北海道史』第5巻史料1

・3. 歴史的特徴(2)④

下中直人 2003「上ノ国町」『北海道の地名』平凡社

北海道 1969「津軽一統志」『新北海道史』第7巻史料1

●Ⅲ 上ノ国町の文化財

・3.6 類型の文化財

秋葉 實 1999『校訂 蝦夷日誌 全』北海道出版企画センター

上ノ国町 歴史文化基本構想

発行年月日 2018年3月30日

編 集 上ノ国町歴史文化基本構想策定委員会

発 行 上ノ国町教育委員会

〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100

TEL (0139) 55-2311 / FAX (0139) 55-2025

印 刷 所 株式会社 長門出版社 印刷部

〒040-0022 北海道函館市日乃出町11番13号

TEL (0138) 52-2461 / FAX (0138) 53-2340
